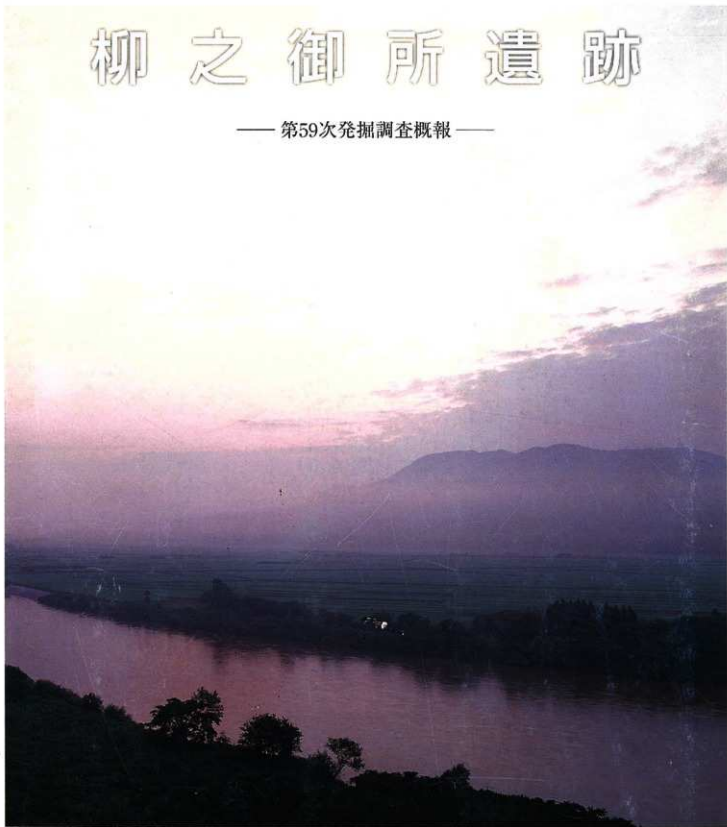


岩手県文化財調査報告書第121集

平泉遺跡群発掘調査報告書

柳之御所遺跡

—— 第59次発掘調査概報 ——



平成18年3月

岩手県教育委員会

岩手県文化財調査報告書第121集
平泉遺跡群発掘調査報告書

柳 之 御 所 遺 跡

—— 第59次発掘調査概報 ——

平成18年3月

岩手県教育委員会

序 言

平泉町に所在する柳之御所遺跡は、平安時代末期の約100年間にわたって北方の王者として繁栄を誇った奥州藤原氏時代の遺跡であり、特別史跡中尊寺境内・特別史跡毛越寺跡・特別史跡無量光院跡と並び、当時の東北地方における政治・経済・文化の中心であった平泉の核をなしていた遺跡の一つであります。

本遺跡は、昭和63年から（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター、平泉町教育委員会が実施した一級河川北上川上流改修一閑遊水地事業及び国道4号改修平泉バイパス建設事業に伴う緊急発掘調査により、大規模な掘立柱建物跡・園池跡・溝跡などが確認され、また、おびただしい量のかかわりけ・墨画資料など、質・量ともに内容豊かな遺物が出土しました。これら大量の遺構・遺物から、本遺跡が『吾妻鏡』にみられる「平泉館」であるとの考えが多くの歴史家から指摘されるようになりました。

このような経過のなかで、遺跡に対する建設省（現国土交通省）のひとかたならぬ御理解により、平成5年には遺跡の永久保存が決定し、平成9年3月には『柳之御所遺跡』として国の史跡に指定されました。さらに、平成13年4月、本遺跡を含む「平泉の文化遺産」が世界文化遺産の暫定リストに登録されたことを受けて、平成20年の世界遺産本登録を目指した取り組みを進めております。

県では、本遺跡が国民共有の貴重な財産であるとの認識から、将来的には史跡公園として整備し、この遺跡を後世に伝えとともに広く活用していきたいと考え、平成10年度から本格的な発掘調査を実施しており、今次調査は第3次三カ年計画の初年次の調査となります。

平成16年度第59次調査は、柳之御所遺跡整備でも重要となる中心建物群及び中心城南西に位置する園池を中心に発掘調査を行いました。その結果、中心建物群については、建物の新旧関係や規模などが明らかとなりました。また、新旧2時期ある園池については、旧池の広がりや橋脚と思われる遺構を確認することができ、今後の復元整備に向けて貴重な資料を得ることができました。なお、園池については来年度も継続して調査を行い、その規模や構造を解明していきたいと考えております。

本報告書は、平成16年度第59次発掘調査成果の一部をまとめたものですが、文化財保護と平泉文化研究発展の一助になれば幸いと存じます。

最後に、発掘調査の実施と報告書作成に当たり、ご指導・ご協力を賜りました平泉遺跡群調査整備指導委員会の先生方、文化庁記念物課、（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター、平泉町教育委員会、国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所をはじめ関係各位に深く感謝申し上げます。

平成18年3月

岩手県教育委員会

教育長 照 井 崇

例 言

1. 本書は、岩手県教育委員会が平成16年度に実施した柳之御所遺跡整備調査事業に係る、史跡柳之御所遺跡の発掘調査の概要報告である。調査期間は平成16年5月10日から10月31日までである。
2. 本事業は、岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課が主体となり、(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターの協力を得て実施した。

〈岩手県教育委員会事務局〉

〈(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター〉

生涯学習文化課長	渡邊 淳	所 長	相原 康二
文化財保護監	小田野哲憲(～H16.7.3)	調査第一課長	佐々木 勝
文化財保護監	中村 英俊(H16.9.1～)	文化財調査員	杉沢昭太郎(担当)
主任埋蔵文化財担当	録田 勉		
主任柳之御所担当主査	倉藤 邦雄(～H16.8.31)		
柳之御所担当主査	佐藤 嘉広(H16.9.1～)		
文化財調査員	佐藤 淳一(担当)		
文化財調査員	大関 真人(担当)		

3. 遺構の呼称は、昭和63年度に(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが実施した調査時の方法に準拠し、下記の略称を使用した。遺構名の記載については遺構略号の前に調査次数を付してある。なお、複数年度にわたる調査で明らかに同一と認定される遺構については当初の調査時の遺構名を継続して使用した。

SA: 塚・柱列 SB: 掘立柱建物 SC: 道路状遺構 SD: 溝・堀 SE: 井戸・井戸状遺構

SG: 圍池 SK: 土坑・柱穴の一部 SX: その他 SI: 堅穴住居 P: 柱穴

例: 59SD1 第59次調査の第1号溝・堀跡

4. 図版、写真図版、遺物観察表中の遺物番号は共通である。遺物の実測図については一部を除いて1/3を基本にしておりスケールを図中に表示した。遺構遺物写真については縮尺不定である。
5. 調査成果の一部については、柳之御所遺跡調査整備指導委員会等で公表してきたが、本書の内容が優先するものである。
6. 遺構の埋土観察・遺物の色調観察は、『新版標準土色帖』を参考にした。
7. 第VI章自然科学分析については株式会社古環境研究所・加速器分析研究所への分析委託により実施したものである。また、「柳之御所遺跡出土木製品の年輪年代測定結果」については、柳之御所遺跡整備に係わる遺構整理の必要から、これまで報告済みのものも含めて光谷拓実氏(奈良国立文化財研究所)に御寄稿を頂いた。
8. 後述した平泉遺跡群調査整備指導委員会の先生方をはじめとして、下記の方々・機関の御協力を得た。
(順不同: 敬称略)

(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 岩手県立博物館 平泉町教育委員会

平泉町文化財センター 柳之御所資料館 奈良国立文化財研究所

株式会社総合土木コンサルタンツ

9. 野外調査・室内整理等に從事していただいた平泉町や近隣市町村の方々の御協力に深く感謝いたします。
10. 本事業に係る調査で得られた諸記録及び出土遺物は、岩手県教育委員会が保管している。

目 次

序言
例言

本文目次

I はじめに	4	(2) 国産陶器	28
II 自然環境と周辺の遺跡	8	(3) 中国産陶磁器	28
III 検出遺構	12	(4) その他の遺物	28
(1) 掘立柱建物跡	12	V まとめ	49
(2) 堀跡	25	VI 付篇 自然科学分析調査報告書	54
(3) 北上川沿いの調査区	26	(1) 柳之御所遺跡出土木製品の年輪年代測定結果	54
IV 出土遺物	28	(2) 年代測定結果報告書	60
(1) かわらけ	28	(3) 柳之御所遺跡における放射性炭素年代測定	62

図版目次

第1図 平泉町位置図	8	第15図 23S B 1平面図	27
第2図 遺跡位置及び周辺の地形・地質状況図	9	第16図 かわらけ(1)	29
第3図 柳之御所遺跡周辺遺跡分布図	11	第17図 かわらけ(2)	30
第4図 28S B 1(1)	13	第18図 瀬美産陶器(1)	31
第5図 28S B 1(2)	14	第19図 瀬美産陶器(2)	32
第6図 28S B 4(1)	15-16	第20図 瀬美産陶器(3)・常清産陶器(1)	33
第7図 28S B 4(2)	17-18	第21図 常清産陶器(2)	34
第8図 28S B 4(3)	19	第22図 常清産陶器(3)	35
第9図 28S B 2(1)	20	第23図 須恵器系陶器・中国産陶磁器ほか	36
第10図 28S B 2(2)・28S B 3(1)	21	第24図 瓦(1)	37
第11図 28S B 3(2)	22	第25図 瓦(2)・その他の遺物	38
第12図 28S B 6(1)	24	第26図 北上川沿い調査区遺構配置図	51-52
第13図 28S B 6(2)	25	柳之御所遺跡第59次調査遺構配置図	
第14図 59S K 5・59S D 4	26	柳之御所遺跡内部地区遺構配置図	

写真図版目次

28S B 4	65	写真図版16 かわらけ(2)	82
調査区・出土地土	66	写真図版17 かわらけ(3)	83
写真図版1 中心建物群1	67	写真図版18 かわらけ(4)	84
写真図版2 中心建物群2	68	写真図版19 かわらけ(5)ほか	85
写真図版3 中心建物群3・28S B 4柱穴(1)	69	写真図版20 国産陶器(1)	86
写真図版4 28S B 4柱穴(2)	70	写真図版21 国産陶器(2)	87
写真図版5 28S B 4柱穴(3)	71	写真図版22 国産陶器(3)	88
写真図版6 28S B 4柱穴(4)	72	写真図版23 国産陶器(4)	89
写真図版7 28S B 4柱穴(5)	73	写真図版24 国産陶器(5)	90
写真図版8 28S B 4柱穴(6)	74	写真図版25 国産陶器(6)	91
写真図版9 28S B 4柱穴(7)	75	写真図版26 中国産陶磁器	92
写真図版10 28S B 4柱穴(8)	76	写真図版27 瓦・石製品	93
写真図版11 28S A 1(1)ほか	77	写真図版28 木製品・その他	94
写真図版12 28S A 1(2)ほか	78	写真図版29 土壁(1)	95
写真図版13 北上川沿いの調査区1	79	写真図版30 土壁(2)	96
写真図版14 北上川沿いの調査区2	80	写真図版31 土壁(3)	97
写真図版15 かわらけ(1)	81		

I はじめに

1 調査経過

県教育委員会では、柳之御所遺跡が平成9年に国の史跡に指定されたことから、当遺跡を史跡公園として整備し保存活用を図るため、文化庁・柳之御所遺跡調査研究指導委員会(現平泉遺跡群調査整備指導委員会)の指導助言を得て、平成10年度から主に未調査区域を対象とした内容確認の発掘調査を計画的・継続的に行っており、三カ年を1サイクルとし、第1期整備対象区域である堀内地区を中心として調査を実施している。

平成10年度実施した第49次調査は、既往の調査で検出されていた園池・中心建物群を囲む堀跡の追跡に主眼を置いて実施した。北上川に面する東辺の堀跡の追跡を行った結果、緊急調査時点で検出されていた部分から7mほど北に向かい延長することが確認された。しかし、さらなる延長については検出されなかった。

平成11年度実施した第50次調査では、既往の調査で確認された園池や大型の建物など、堀で囲まれた中核域の周辺地域での12世紀代の遺構の広がりや密度を確認することを目的として発掘調査を行った。その結果、12世紀代の遺構が現況の河岸線まで分布し柳之御所遺跡の一部が北上川の侵食で失われていることが確認された。また、塀や井戸状遺構の検出、複雑に重複する掘立柱建物などが多数検出され、複数時期にわたって遺跡が営まれたことが明らかになった。さらに、「磐前村印」と刻印された銅印と器表面全体を漆の沁み込んだ麻布で覆われたほぼ完形に近い白磁四耳壺が同一の井戸状遺構から出土した。地名を刻印したと推定される銅印の発見は、奥州藤原氏の統治システムを考察する上で貴重な資料となるばかりでなく、本邦の印章史の空白期を埋める資料として注目された。

平成12年度の第52次調査では、園池周辺域の中心建物群とは異なるエリアから、建物の軸線の異なる大型の建物が検出された。これは、時期を異にして大型の建物で構成される複数の地域が存在したことであり、柳之御所遺跡の遺構の変遷を考えるうえで重要な課題を提示した。両者とも12世紀後半代、三代秀衡の時代に比定される遺構群であるが、中心域の移動がおこなわれた背景には、平泉あるいは奥州藤原氏内部での何らかの重要な転換期を反映している可能性が考えられる。

また、柳之御所遺跡は従来まで遺跡のピークが三代秀衡の治世12世紀第三四半期にあることが指摘されてきたが、新たに12世紀初頭あるいは前葉に位置づけられる一群の土器群が発見されたことで、当遺跡が12世紀前半代初代清衡の時期まで遡ることが明らかになった。これは、政庁「平泉館」の性格あるいは、奥州藤原氏の平泉での確立期の状況を推定させる重要な発見である。

平成13年度の第55次調査では、新たに園池の北側に大規模な建物の存在が明らかとなり、柳之御所遺跡の中核施設の移動が想定されるようになった。また、初代清衡の時代である12世紀初め頃のかかわりがまとまって発見され、柳之御所遺跡の開始年代と遺跡の性格、ひいては平泉奥州藤原氏の設立期の問題を考える上で非常に大きな問題を示唆することとなった。

平成14年度の第56次調査では、遺跡中核部を囲む2条の堀跡の追跡調査を実施し、遺跡北部より30数基のトイレ状遺構が集中して見つかるなど、当時の生活の様子を具体的に分析できる資料が発掘された。また、平泉では初めてとなる中国南部の吉州窯製の陶器片も出土し、奥州藤原氏の経済基盤の豊かさを知る手がかりとなった。

平成15年度の第57次調査では、第23次(平成元年度)の調査で作り替えが確認されていた、園池についての詳細な規模や造成時期の把握及び堀跡の追跡と門跡の確認、高館南側部分の遺構分布の確認を目的として調査を実施した。調査の結果、堀跡及び門跡を確認することはできなかったが、高館南側部分も北上川の侵食により遺構が失われていること、旧園池の造成時期や北半部の汀線が明らかとなった。

平成16年度は第3次三カ年計画の初年次に該当し、通次で第59次調査に相当する。今年度は、以前から指摘のあった中心建物群の規模や新旧関係の確定、園池の規模や構造の解明を目的として調査を実施した。

2 本年度の調査について

(1) 平泉遺跡群調査整備指導委員会

当教育委員会では、平成10年度から柳之御所遺跡の内容確認調査を再開するにあたり、「柳之御所遺跡調査研究指導委員会」を設置し、柳之御所遺跡及び平泉遺跡群の発掘調査及び調査研究に対して指導助言を得

てきた。平成12年に「平泉の文化遺産」が世界文化遺産の暫定リストに追加登載されたことから、新たに5名の指導委員を委嘱し委員会の名称を「柳之御所遺跡調査整備指導委員会」に改め、さらに平成15年度は世界遺産本登録に向けたコアゾーン再検討の必要性から「平泉遺跡群調査整備指導委員会」と改称するとともに、三分野からなる専門部会を設置した。

平成16年度は以下の内容で委員会を開催した。

- (1) 平泉遺跡群調査整備指導委員会整備検討部会（平成16年4月23日）
 - ・整備のゾーニングと動線について
 - ・整備手法の検討
- (2) 平泉遺跡群調査整備指導委員会遺構検討部会（平成16年5月21～22日）
 - ・柳之御所と周辺施設の検討
 - ・中心建物群の検討
 - ・柱穴、柱位置の検討
- (3) 平泉遺跡群調査整備指導委員会遺構・整備検討合同部会（平成16年7月9～10日）
 - ・園池の検討
 - ・地形の復元
 - ・柱痕、柱間及び上部構造のイメージ検討
 - ・欄状遺構(28SA1)の検討
- (4) 第1回平泉遺跡群調査整備指導委員会（平成16年10月28～29日）
 - ・平泉遺跡群現地視察
 - ・道の駅「平泉」計画について
 - ・柳之御所遺跡整備実施計画について
- (5) 平泉遺跡群調査整備指導委員会遺構検討部会（平成17年1月20日）
 - ・中心建物(28SB2・28SB4)の検討
 - ・構脚部材の検討
- (6) 第2回平泉遺跡群調査整備指導委員会（平成17年2月17～18日）
 - ・平泉遺跡群発掘調査報告
 - ・柳之御所遺跡整備実施計画の再検討
 - ・平成17年度工事概要について
 - ・平泉町関係事業（中尊寺大池整備構想、無量光院跡整備基本計画等）

平泉遺跡群調査整備指導委員会

(平成17年3月現在)

氏名	役職	専門分野	専門部会
入間田宣夫	東北大学教授	歴史学(古代・中世)	整備
牛川 喜幸	京都橘女子大学教授	造園学・史跡整備	整備
遠藤セツ子	メビウスの会代表	地元有識者	整備
岡田 茂弘	独立行政法人国立歴史民俗博物館名誉教授	考古学(古代)	保存・整備
小野 正敏	独立行政法人国立歴史民俗博物館助教授	考古学(陶磁器)	遺構
◎河原 純之	川村学園女子大学教授	考古学(中世)	
○工藤 雅樹	東北歴史博物館長	考古学・歴史学(古代)	遺構・保存
斉藤 利男	弘前大学教授	歴史学(中世)	遺構
佐藤 信	東京大学教授	歴史学(古代)	保存・整備
清水 擴	東京工芸大学教授	建築学	遺構
清水 真一	東京芸術大学教授	建築学	遺構
関宮 治良	平泉町商工会事務局長	地元有識者	整備
田中 哲雄	東北芸術工科大学教授	造園学	保存・整備
田辺 征夫	独立行政法人文化財研究所奈良文化財研究所 埋蔵文化財センター長	考古学(歴史)	遺構
玉井 哲雄	千葉大学教授	建築学	遺構
西村 幸夫	東京大学教授	都市工学	保存

※ ◎委員長 ○副委員長

※ 専門部会 遺構・・・遺構検討部会、保存・・・保存管理計画検討部会、整備・・・整備検討部会

〔2〕調査の目的と調査の方法

平成16年度は柳之御所遺跡発掘調査第3次三カ年計画の初年次にあたり、柳之御所遺跡の中核と想定される中心建物群及び園池を主な調査対象区として発掘調査を実施した。

調査は以下の内容を目的として行った。

- (1) 中心建物群の新旧関係と規模の確定。
- (2) 造り替えが明らかになっている園池について、さらに詳細な規模や造成時期の把握。
- (3) 北上川沿い縁辺部の遺構残存状況の確認。

発掘調査にあたって昭和63年度の(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが行った緊急発掘調査の際に設定したグリッドに従った。グリッドの呼称についても同様である。

基本的には遺構の内容把握を主目的としている。遺構の所属時期の確定・遺構の性格等を把握することを最優先しており、検出した遺構すべてを最終的な段階まで精査しているわけではない。なお、半截あるいは完掘した遺構については砂で埋め戻し、遺構面を覆い、可能な限り元の状態に復旧し保存を図っている。

柳之御所遺跡発掘調査年次計画

年次	調査回数	調査面積	調査期間	予算(千円)	備考	
第1次三カ年計画	平成10年度	第49次	500㎡	5月15日～ 10月31日	18,211	国庫補助
	平成11年度	第50次	1,800㎡	5月13日～ 10月31日	32,236	国庫補助
	平成12年度	第52次	2,500㎡	5月15日～ 11月17日	43,341	国庫補助
第2次三カ年計画	平成13年度	第55次	3,100㎡	5月11日～ 11月13日	46,103	国庫補助
	平成14年度	第56次	4,000㎡	5月13日～ 11月29日	62,054	国庫補助
	平成15年度	第57次	4,000㎡	4月14日～ 10月31日	67,195	国庫補助
第3次三カ年計画	平成16年度	第59次	3,500㎡	5月10日～ 10月31日	69,317	国庫補助
	平成17年度	第64次	2,500㎡	4月15日～ 9月30日	141,679	国庫補助
	平成18年度		1,500㎡			

※ 平成17年度までは実績、18年度以降は予定

柳之御所遺跡発掘調査年次別調査計画

年 次	調査回数	調 査 内 容 等	
第 1 次 三 カ 年 計 画	平成10年度	第49次	<ul style="list-style-type: none"> ・堀内部地内の中心建物群、特に最大建物である南北棟4間9間42SB1（28SB4と一部重複）の東側地区の解明 ・23次調査時の23SB2建物跡の延長確認 ・23SA3柱列跡、23SA1堀跡の延長確認 ・48SB1建物跡の延長確認と所属時期の検討
	平成11年度	第50次	<ul style="list-style-type: none"> ・池跡及び中心建物群を囲む23SA1堀跡の追跡 ・4間9間の南北棟の東側の状況及び建物群の伸長 ・42SD1大溝とされていた遺構の時期及び伸展状況追跡 ・37次・42次の内容確認調査に確認されていた溝・堀類の時期及び伸展状況の把握
	平成12年度	第52次	<ul style="list-style-type: none"> ・堀内部地区、中心建物群の西側及び北西側地域の解明 ・祭祀遺構周辺域の解明 ・無量光院との対峙地域の解明 ・堀外部地区から延長すると推定される道路遺構の解明
第 2 次 三 カ 年 計 画	平成13年度	第55次	<ul style="list-style-type: none"> ・中心建物群の北側地区の解明 ・中心建物群を囲むと推定される御跡の検出 ・堀外部地区から延長すると推定される道路遺構の解明 ・現存する微高地状の高まりの性格把握 ・北上川縁地域の状況把握
	平成14年度	第56次	<ul style="list-style-type: none"> ・第52次発掘調査の際に検出された大規模な堀（内堀）と掘出施設を伴う溝の追跡 ・北上川右岸縁での大型建物の展開の把握 ・遺跡を二分する外堀の追跡
	平成15年度	第57次	<ul style="list-style-type: none"> ・旧池跡の規模と造成時期の把握 ・遺跡中核を囲う堀の追跡調査及び門跡の確認 ・高館南側部分未調査地域の遺構分布の確認
第 3 次 三 カ 年 計 画	平成16年度	第59次	<ul style="list-style-type: none"> ・中心建物群の規模と新旧関係の解明 ・園池北部の構造及び規模と造成時期の把握 ・北上川縁辺地域の状況把握
	平成17年度	第64次	<ul style="list-style-type: none"> ・園池南部の構造及び規模と造成時期の把握 ・中心建物群の南側への展開状況の確認
	平成18年度		<ul style="list-style-type: none"> ・遺跡中核を囲う堀の追跡調査及び門跡及び道路遺構の確認 ・遺跡を囲む堀南端部の未調査地域の解明

※ 第51次・53次・54次・58次・60～63次調査は平泉町教育委員会が実施。

II 自然環境と周辺の遺跡

1 位置

榑之御所遺跡の所在する西磐井郡平泉町は岩手県南部に位置する(第1図)。面積は63.39㎢、人口は約9,000人で、南は一関市、北は胆沢郡前沢町と衣川村、東は東磐井郡東山町と接している(平成17年3月現在)。

町内にはJR東北本線・国道4号・東北縦貫自動車道などが南北に通じ、交通の要衝となっている。国宝指定第1号の金色堂や東稲山に代表される古い歴史と恵まれた自然環境があり、年間160万人以上の観光客が訪れる国内有数の観光地である。

気候は内陸型で寒暖の差は大きく、年平均気温は11.5℃とやや低いが、岩手県内では比較的温暖である。また、年間降水量は900mmと少なく、積雪も少ない。

町のほぼ中央部には北上川が南流している。現在の北上川は本遺跡の北側部分を浸食しているが、12世紀当時は今とは若干異なった流路を持ち、物資の輸送に重要な役割を果たしていたと推測できる。

本遺跡はJR平泉駅から北に約700m(徒歩10分)にあり、市街地から続く段丘の北東平坦地で高館の南東に位置する。また、猪間が淵を挟み無量光院跡と隣接している。平成12年頃まで遺跡は北上川に面していたが、現在は平泉下流堤防と国道4号平泉バイパスが建設されている。遺跡は国土地理院発行5万分の1地形図「一関」及び2万5千分の1地形図「平泉」に含まれ、北緯38°59'37"、東経141°7'10" (世界測地系) 付近にある。



第1図 平泉町位置図

2 地形・地質

(1) 地形及び地質概要

平泉町は東部の東稲山山地(標高200~600m;北上山地の一部)、中央部の北上低地帯(標高20~40m)、西部の平泉丘陵(標高100~200m;衣川丘陵の一部)から構成される(第2図)。

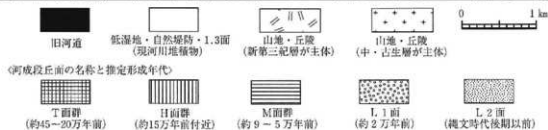
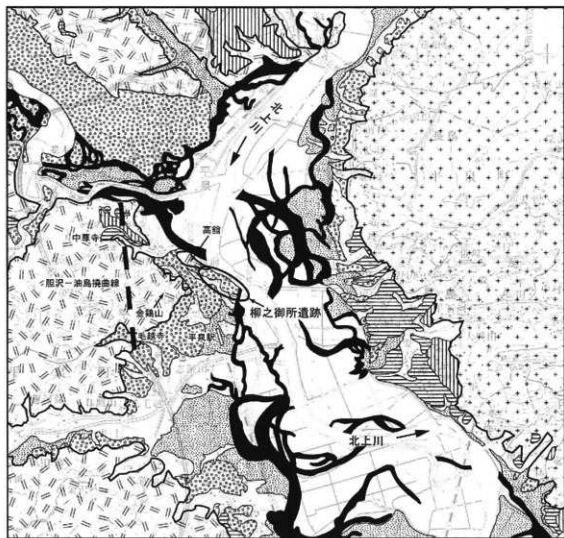
東稲山山地は、約2.5億年前(ペルム紀)の頁岩、恐竜が繁栄した約1億年前(白亜紀)の火山噴出物及び花崗岩類(東稲花崗岩体)などの中・古生層からなり、いわゆる基盤岩類と呼ばれる硬質の岩石である。

北上低地帯は河成段丘、低湿地や自然堤防などからなる平坦地である。これらは主に氷河期やそれ以降に、北上川や支川によりもたらされた砂礫や泥(河川堆積物)が堆積した地域である。段丘面は住居、耕作地、商業地などに、低地帯は水田に利用されている。

平泉丘陵は、厚い火山噴出物(崩美層)、海に堆積した泥岩や砂岩(竜の口層など)及び河川や湖沼などに堆積した陸成堆積物(金沢層など)からなる。これらは日本列島形成期の約1,400万年~300万年前(新第三紀)に堆積した。竜の口層(かつての油島層)はクジラやカキの化石が、金沢層は亜炭を含むことが特徴である。亜炭は中尊寺付近でも採掘されていた。

地層は概ね水平であるが、毛越寺から中尊寺にかけて胆沢-油島換曲線と呼ばれる地層の急傾斜帯が分布

する。胆沢-油島坳曲線は10万年程度前(後期更新世)まで断続的に変形運動したと推定されている(大石,1997)。高館や金鶏山などの標高100m以下の小高い丘は、金沢層が河川の浸食から免れてきた残丘である。これらは比較的軟らかい砂岩、泥岩、凝灰岩からなる。



第2図 遺跡位置及び周辺の地形・地質概況図

(5万分の1地形図「水沢」「一関」に、地質図と野中氏の地形分類図を簡略化して編集)

(2) 段丘面及び旧河道

北上川西岸には数段の河成段丘が発達している。これらは高位よりT面群、H面群、M面群、L面群に区分され、それぞれ第2図に示す年代に形成したと推定されている(渡辺,1991;野中,2005)。T面群は大上・吉

田(1984)により一首坂段丘、H面群は上野原段丘・横造段丘、M面群は堀切段丘・福原段丘と呼ばれている。L面群は盛岡市、花巻市、北上市、水沢市、一関市などの中心市街地が立地する段丘面で、水沢から衣川にかけてのL1面は水沢高位段丘、L2面は水沢低位段丘と呼ばれている。

平泉町中心部はL1面及びL2面(いわゆる平泉段丘)にあたり、金沢層の上に堆積した未固結の河川堆積物(砂・礫・粘土～シルト・有機物)からなる。

柳之御所遺跡は北西から南東に細長く、最大長約750m、最大幅約220m、面積は約11万㎡である。遺跡の北西部から中心部はL1面に位置し、標高は北西から南東に向けて低く、高館に接する付近で約38m、中心建物群付近で約27mである。南東部はL2面になり、標高は約25mで、東側の堀で約22mである。河川氾濫原のL3面は標高約21mである。L2面は縄文時代後期以前に形成され、平安時代前期までほとんど冠水することは無かったが、奥州藤原氏滅亡後の13世紀以降は北上川の洪水で冠水したと考えられている(野中, 2005)。

L2面に位置する遺跡は柳之御所遺跡の他に、伽羅御所跡、泉屋遺跡などがある。

3 遺構面以深の土層序

平成16年度に実施したボーリング調査から、遺構面以深の土層序が明らかになった(岩手県教育委員会事務局, 2005)。柳之御所遺跡は、約2万年以前に北上川などからもたらされた河川堆積物を基礎地盤としている。主に洪水時の堆積物であるため、同一土層の消長は激しいが、おおむね以下のようにまとめられる。地下水の汲み上げ能力が良い砂礫層は約5～8m以深に分布する。

土層名	遺構面からの深度(m)	厚さ(m)	特徴
粘土～砂質シルト	直下	約2～5	風化部は黄褐～灰黄色、新鮮部は青灰色を呈する。粘土と上方細粒化した砂質シルトの互層である。遺跡の北西部では有機質粘土を挟む。
中砂	約2～5	1.4以下	青灰色を呈し、石英や長石などの径0.5mm弱の中粒砂を主とする。地下水の透水性は中位。遺跡の中央付近に分布する。
粘土～砂質シルト	約3～5	約1	青灰色を呈す粘土と砂質シルトからなる。遺跡の中央付近では有機質粘土を挟む。
シルト質砂～細砂	約4～6	約1～2	黄灰～青灰色を呈し、結晶片を主とする細砂とシルトからなる。
砂礫	約5～8	6以上	主に径3～150mmの安山岩礫、中～粗砂及びシルトからなる。赤褐～暗青灰色を呈し、全体に不均質である。地下水の透水性はやや高い。

<引用文献>

- (1) 平泉町ホームページを参考
- (2) 大石徳之(1997)『平泉町における新第三系鮮新統と海成哺乳類化石』平泉町史 自然編・民俗編(一)、平泉町。
- (3) 渡辺潤久(1991)『北上低地帯における河成段丘面の編年および後期更新世における岩屑供給』第四紀研究, 第30巻。
- (4) 野中奈津子(2005)『柳之御所付近の沖積地の河川氾濫と河道痕跡の検出 -地形学的手法を用いて-』平泉文化研究年報, 第5号, 岩手県教育委員会。
- (5) 大上和良・吉田 充(1984)『北上川中流域, 屈折扇状地における火山灰層序』岩手大学工学部研究報告, 第37巻。
- (6) 岩手県教育委員会事務局(2005) 柳之御所遺跡地内地質調査業務委託報告書。



番号	遺跡名	所在地	調査状況	種別
1	柳之御所跡	字柳御所	一部調査	居館
2	高館跡	字柳御所	一部調査	居館、城館
3	猫間が淵跡	字柳御所	一部調査	沢跡
4	伽羅之御所跡	字伽羅楽	一部調査	居館、屋敷地
5	無量光院跡	字花立	一部調査	寺社
6	花立Ⅰ遺跡	字花立	一部調査	寺社、城館
7	花立Ⅱ遺跡	字花立	一部調査	寺社
8	白山社遺跡	字鈴沢	一部調査	寺社、屋敷地

第3図 柳之御所遺跡周辺遺跡分布図

Ⅲ 検出遺構

柳之御所遺跡の遺構変遷を考える上で確認調査を実施した遺構は、6棟の掘立柱建物跡と1基の竪穴である。また園池についても部分的に調査をしているが、次年度(64次)調査と併せて報告する予定である。

(1) 掘立柱建物跡

本報告の中では1尺を30.3cm、建物方位は座標北を基に計測しているが、例外についてはその都度触れている。

28SB1 (第4・5図・写真図版1)

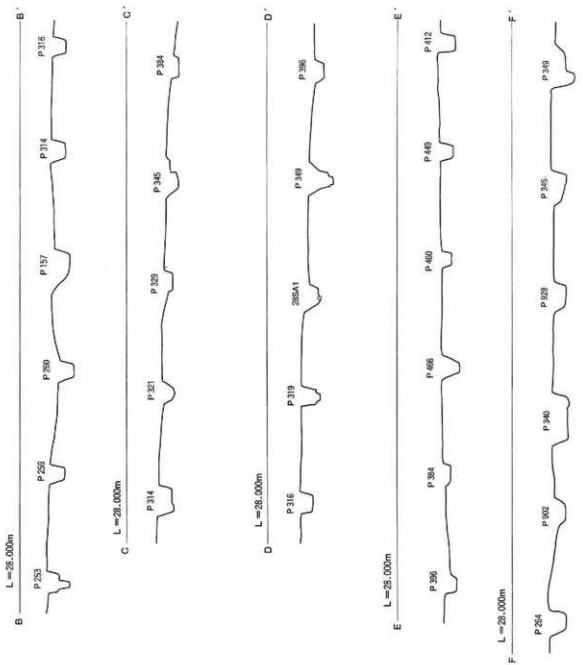
〔位置〕遺跡のほぼ中央、78-68グリッドに位置する。遺構周辺の地形は北西側が高く、南・東側に向かって低くなっている。〔重複〕28SX1・28SA1・28SB6より新しく、28SE1・28SE2よりも古い。〔構造・平面形式〕掘立柱建物である。身舎の桁行3間、梁間2間の四面に庇の付く三間四面の建物である。〔柱穴〕柱痕跡が残っていたのは7基で、他の柱穴では柱が抜き取られていたようである。柱径の径は20-25cmあった。掘り方の規模は身舎と庇で大きな違いはなく、平均52×50cmほどである。検出された柱穴の深さは17-66cmを測る。〔建物方位〕桁行方向でN-2°-Eである。〔柱間寸法〕9尺5寸から9尺6寸を基準寸法としていると思われる。〔年代〕12世紀第3四半期(1189年まで存続か)。

28SB2 (第9・10図・写真図版1)

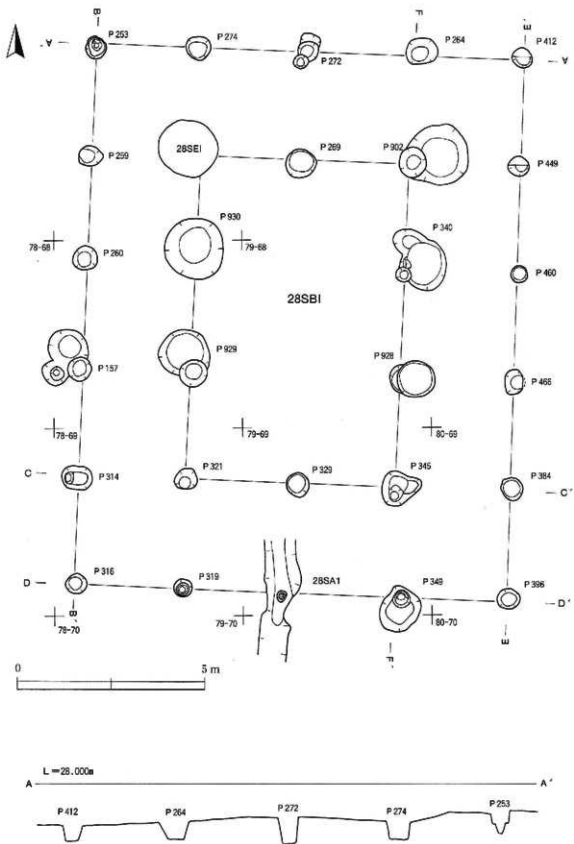
〔位置〕遺跡のほぼ中央にあたる77-69グリッド付近に位置する。遺構検出面(地山面)での地形としては北西側が最も高く南・東側に向かい緩やかに傾斜している。本遺構の南側には近年に深く削られた部分がある。〔重複〕28SD28より新しく、28SE2・28SE6・28SE9よりも古い。空間的に重複する遺構としては28SD10、28SD11、28SE7、28SE8、28SK11、28SK13がある。〔構造・平面形式〕掘立柱建物である。身舎の桁行3間、梁間2間の四面に庇が巡る三間四面の建物である。庇の南西部分については深く削られているために柱穴は失われている。〔柱穴〕柱痕跡が残っていたものはない。抜き取り痕と思われる痕跡があったものは8基、その他も柱は抜き取られた可能性が高い。掘り方の規模は平均径50cm前後で身舎と庇には大きな違いは見出せない。深さは6-74cmで地形的に低くなる南・南東側のほうが浅い傾向がある。〔建物方位〕N-2°-E〔柱間寸法〕基準寸法を9尺5寸としているようである。1尺は30.337cmで計算した。〔年代〕12世紀第3四半期ごろか。

28SB3 (第10-11図・写真図版2)

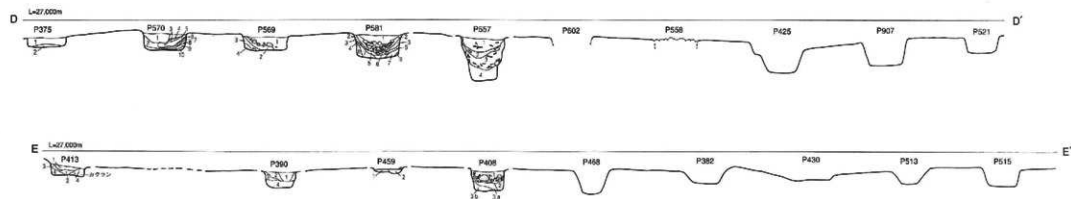
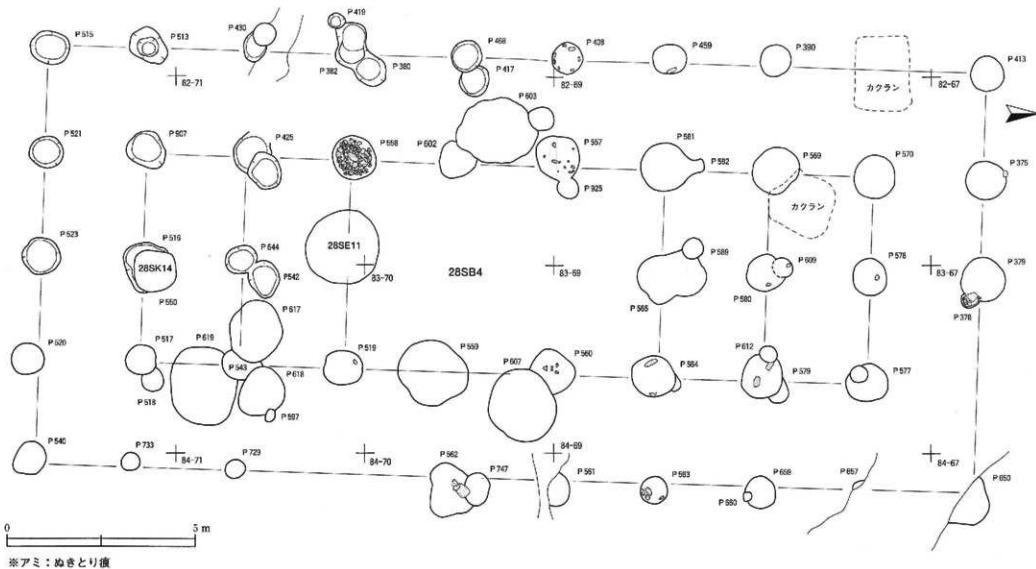
〔位置〕遺跡のほぼ中央、78-71グリッド周辺に位置する。遺構検出面(地山面)での地形としては北西側が最も高く南・東側に向かい緩やかに傾斜している。本遺構の南側には近年に深く削られた部分がある。〔重複〕28SE9・28SK11・28SK34より古い。〔構造・平面形式〕掘立柱建物である。身舎の桁行3間、梁間2間の三間四面の建物であると推定したが、南側は深く削られているために柱穴は残っていなかった。〔柱穴〕柱痕跡が残っているものはない。浅い柱穴1基を除き、その他の全ての柱穴は抜き取りを行ったと考えられる掘り跡であった。掘り方の規模は平均して96-93cmくらいで、身舎と庇とは隔隔な違いはみられない。他の建物に比べても少し深く掘り込まれている。身舎の柱穴の深さは80-124cm、庇は40-81cmを測り、身舎が庇よりも深く柱穴が掘られている。



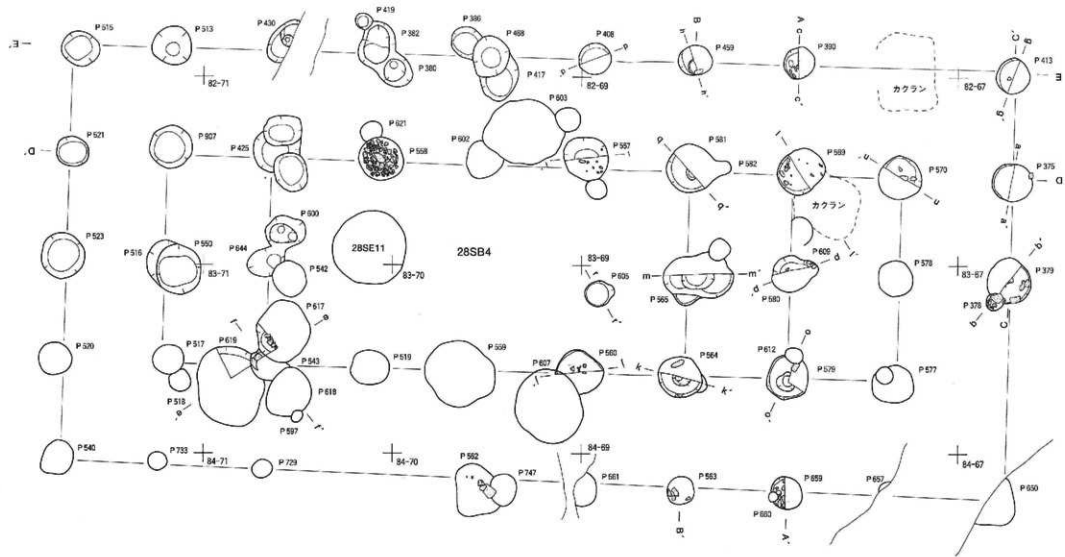
第5图 28SB1 (2)



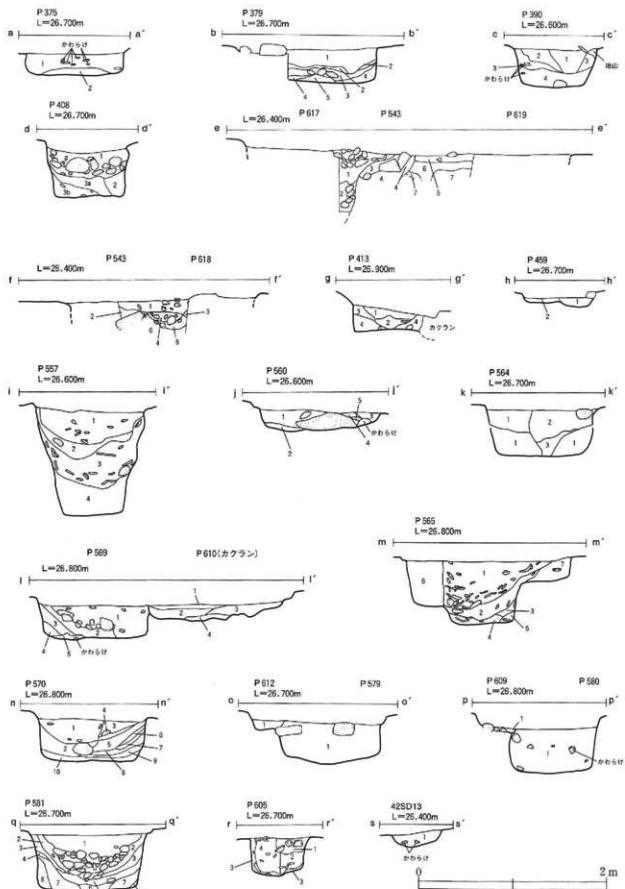
第4圖 28SB1 (1)



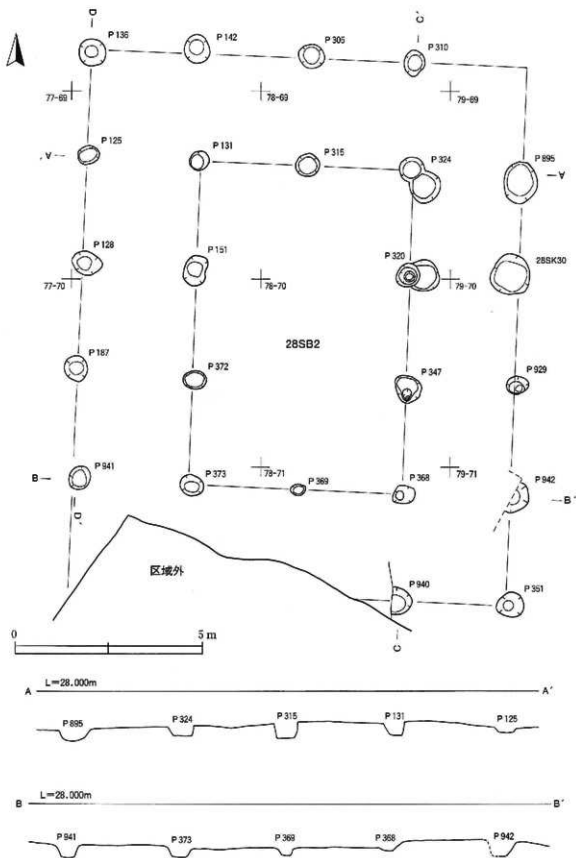
第6図 28SB4 (1)



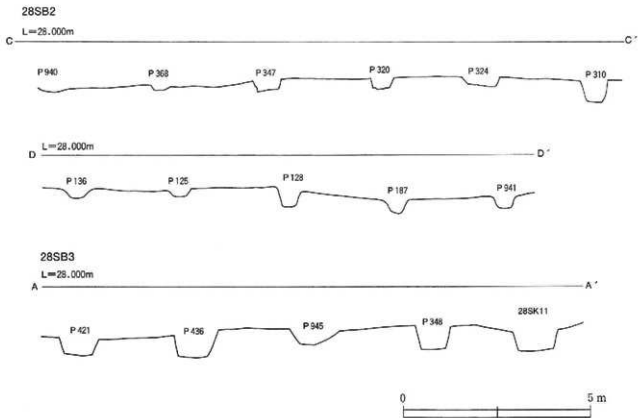
第7図 28SB4 (2)



第8図 28SB4 (3)

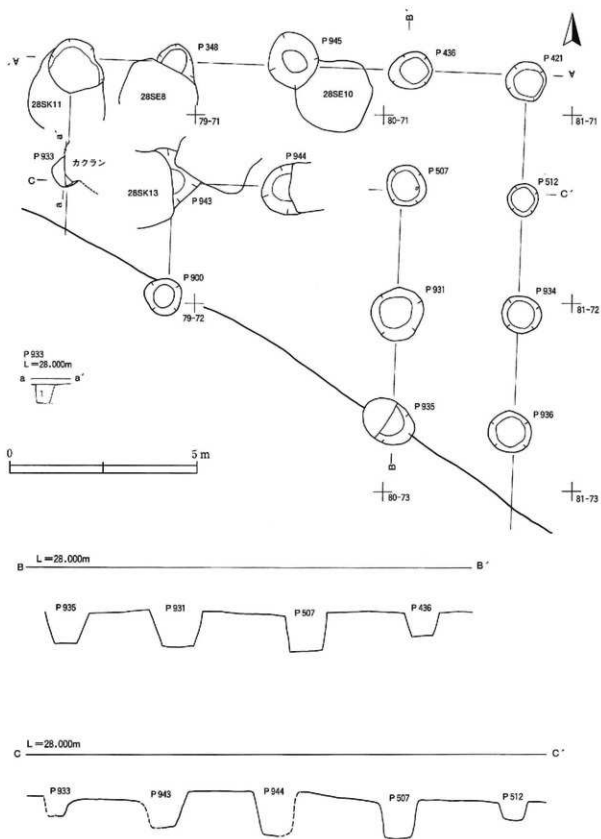


第9图 28SB2 (1)



第10図 28SB2(2)・28SB3(1)

[建物方位] N-3°-E [柱間寸法] 10.3尺を基準寸法としているようであるが、身舎から西側の庇への出は少し短く約9.5尺のようである。[年代] 12世紀初頭、最古段階の遺構の一つと考えている。



第11図 28SB3 (2)

28SB4 (第6～8図・写真図版3～10)

〔位置〕 堀内部地区の中央やや東側にあたる82-67-84-71グリッドに位置している。遺構検出面では東側に緩やかに下がっていく地形であった。そのため12世紀当時には整地をして生活面を平坦にしていたと推測される。遺構検出面に人為的な土によるシミが不規則に観察されるのは整地層の残存部分と解釈している。

〔重複〕 28SE11・P559・P603・P617・P618・P378・P612・P609・P589・P747・P607より古い。28SB8・P619より新しい。(構造・平面形式) 掘立柱建物跡である。身舎の桁行7間、梁間2間の四面に庇が巡る七間四面の建物である。他遺構との重複で失われた柱穴は4基、東側の庇P729の北にあるはずの柱穴は地形的に低くなっているため検出できなかった。〔柱穴〕 これまでの調査で遺構検出のみで、精査を行っていなかった柱穴については全て柱が抜き取られていた。柱痕跡は柱穴を掘り下げることによって、抜き取り痕が次第に狭くなり柱径に近似する部分と底面が凹んでいる部分で測定した。柱径は27～30cmを測る。掘り方の規模は平面・深さ共に身舎が大きく庇部分がやや小さい傾向がある。〔建物方位〕 N-0°-E〔柱間寸法〕 9.2尺を基準寸法としている。南端の庇の出が9尺となるようである。〔出土遺物〕 抜き取り痕に礫を捨てたもの、かわらけを捨てたものなどがあつた。1～50は柱を抜き取ってできた穴に廃棄されたかわらけである。出土状況や土器の接合具合から、穴に廃棄されるまでどこか別の場所にまとめて置かれていたようである。〔年代〕 下限を1180年代頃とみている。上限は不明だが極端に長期間建っていたとは考えにくい。

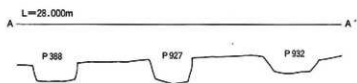
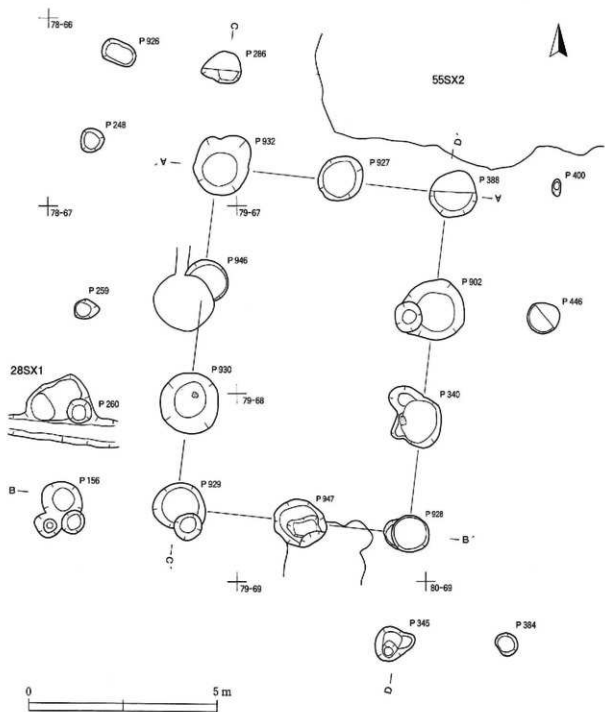
28SB6 (第12-13図・写真図版2)

〔位置〕 堀内部地区のほぼ中央、79-67グリッドの周辺に位置している。〔重複〕 28SB1・28SB2・28SE1・28SE1・55SX2よりも古い。〔構造・平面形式〕 掘立柱建物跡である。身舎の桁行3間、梁間2間の四面に庇が巡る三間四面の建物を想定したが、庇部分の柱穴が揃わないため、身舎部分のみの3×2間の建物の可能性もある。〔柱穴〕 柱痕跡が認められたところは無く、全てが抜き取られていたようである。掘り方の規模は身舎部分が庇部分に対して大きくて深さもある。東及び南側庇にはあるはずの場所で柱穴が見つからなかった。〔建物方位〕 N-6°-Eと中心建物群の中では最も軸線が振れている。〔柱間寸法〕 10.3尺を基準としている。〔年代〕 12世紀第1四半期と想定している。

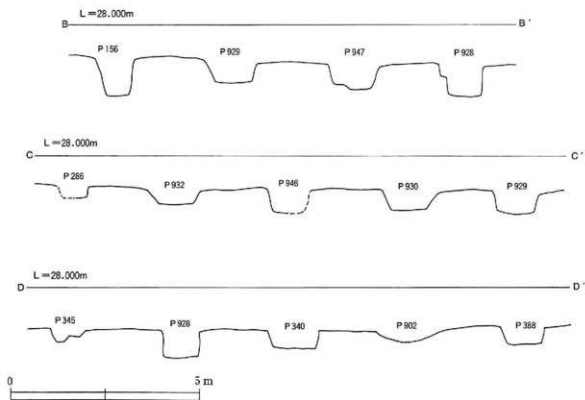
28SB8

過去の調査から平面形に変更がないため図版は作成していない。

〔位置〕 堀内部地区の中央やや東側、83-70グリッドの周辺に位置している。〔重複〕 P602-P556、P747-P562の関係から28SB4より古いとみた。断面観察をしたf-f'では互いに抜き取り痕のため新旧の判断が難しかった。28SE11とは空間的に重なっている。(構造・平面形式) 掘立柱建物跡である。桁行5間、梁間2間の建物である。南側にP518と732が付属すると考えている。〔柱穴〕 柱痕跡が認められたところはなく、柱は全て抜き取られているようである。掘り方の規模は140～80cmほどで100cm未満のものが主体である。〔建物方位〕 N-0°-E〔柱間寸法〕 9尺を基準としているようである。〔出土遺物〕 かわらけの碎片。〔年代〕 28SB4より古いとしか言えない。現段階では12世紀前半としておきたい。



第12图 28SB6 (1)



第13図 28SB6 (2)

(2) 坝跡

28 S A 1 坝跡 (写真図版11・12)

前回の調査と規模・形態に変更はないため平面図は作成していない。

(3) 北上川沿い調査区

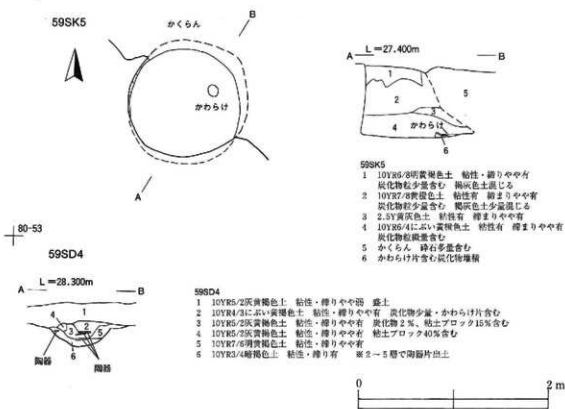
国道4号バイパス側に造成予定の修景盛土工事に先立ち、柳之御所遺跡が北上川による侵食及び護岸工事により失われている状況を確認した。調査範囲は、柳之御所遺跡第42・50・52・55次調査区を含む柳之御所遺跡の北縁を長さ約240m、幅約3mにわたって検出・精査を行った(第26図)。狭い幅での調査のために遺構の性格など不明の部分もあるが、従来から指摘されているように、12世紀当時の柳之御所遺跡はさらに北側へ展開していたことは明らかである。

59SK5 (第14図・写真図版12)

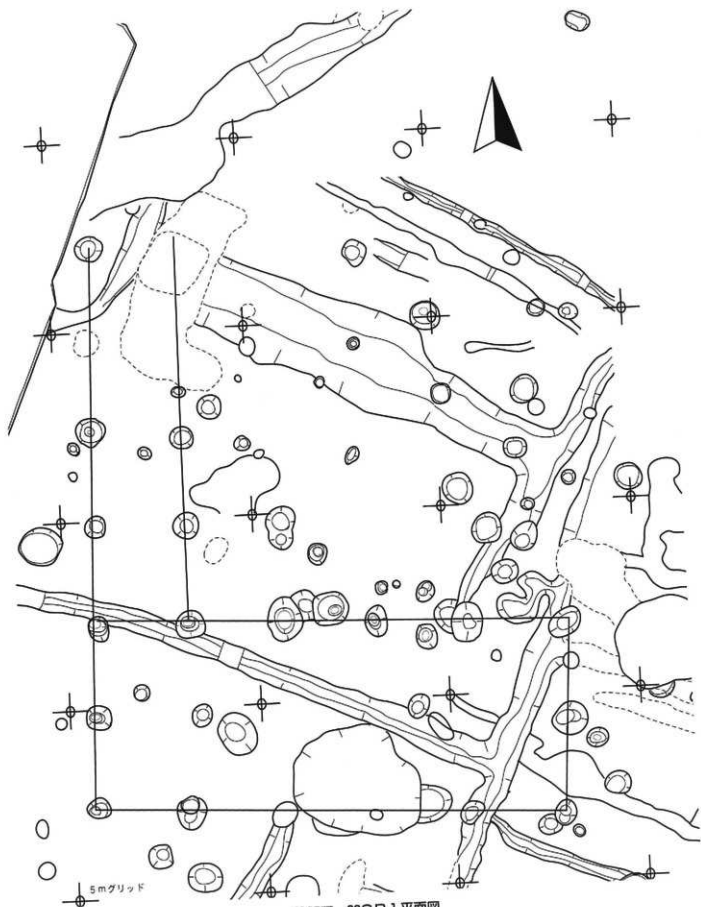
遺跡場内部地区の北端部中央(80-52)に位置している。北側上層は護岸工事による攪乱を受けているが、底面については形状を確認することができた。検出面及び底面径1.2m、深さは約0.8mを測る。埋土は人為堆積であり、主に1・2層から一定量のかわらけ片を中心とする遺物が出土した。底面には意図的に置かれたような様相で完形のロクロかわらけが出土した。底面は砂質で水も染み出してくるが井戸とするには浅い。

59SD4 (第14図・写真図版13)

遺跡場内部地区の北西部北上川沿い(87-44)に位置している。南側の調査区域外から北上川による侵食をうけた北側までの約4mにかけて検出した。上幅は0.5-0.7m、深さ約0.2m、U字形の底面をもつ溝である。底面標高は南端で27.7m、北端で27.5mであり現在の北上川方向に緩く傾斜している。2-5層で渾美産を中心とする陶器片が多数出土した。溝はさらに南に延びているが調査区外のために全容は不明である。



第14図 59SK5・59SD4



第15図 23SB1平面図

IV 出土遺物

59次調査で出土した遺物は、かわらけ（ロクロ、手づくね）、国産陶器（常滑、瀬美、須恵器系）、輸入陶磁器（白磁、瓦（軒丸瓦、軒平瓦、丸瓦、平瓦）、木製品、石製品、鉄器などである。ここでは種類ごとに概要をまとめ、遺物の出土状況についてはⅢを、遺物の特徴については観察表を参照して頂きたい。23SG 1からの遺物については、その多くを次年度の64次調査概報に掲載することとしている。

(1) かわらけ (第16・17図・写真図版15~19)

12世紀のかわらけは59次調査の全体で115,471枚出土した。この中から遺構内出土のものを中心に掲載した。この特徴については観察表に整理している。かわらけはロクロ整形と手づくねに分けられ、手づくねかわらけは以下のように分類される。

- | | |
|-------------------|--------------------|
| C 3…2段まで、口縁部面取りなし | C 4…2段まで、口縁部をつまみ上げ |
| C 5…2段まで、口縁部面取りあり | D 2…1段まで、口縁部外反 |
| D 3…1段まで、口縁部面取りなし | D 4…1段まで、口縁部面取りあり |

ロクロかわらけについては特別、形態分類していないが、法量は表に載せている。これは実測図上で計測したもので、反転実測で求められた数値を記している場合もある。

141は底面を丸く打ち欠き中心に穿孔がある。

(2) 国産陶器 (第18~23図・写真図版19~25)

中心建物群の周辺や園池では再調査ということもあって遺物の出土は少ない。殆どは堀内地区北縁を細長く調査した際に表土及び溝などから出土している。

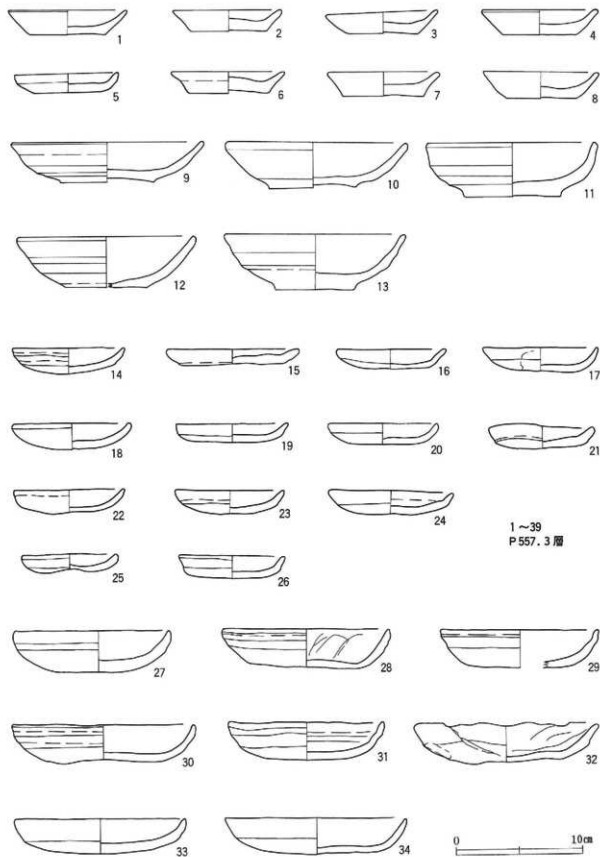
(3) 中国産陶磁器 (第23図・写真図版26)

白磁は出土した殆どを、中国産陶器は全てを掲載している。これまでの傾向と同じく、白磁は壺類が碗皿類より多く出土している。

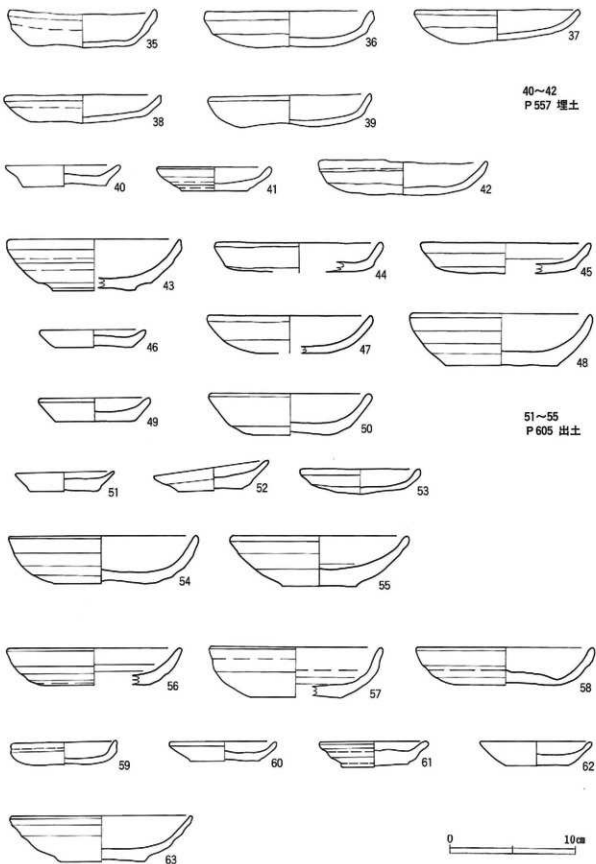
(4) その他の遺物 (第24・25図・写真図版27~31)

瓦は細片が殆どで軒平・軒丸瓦はない。4001は園池から出土した木製品。5001は紙石である。他に穴あき石、羽口、近世末以降の土器・陶磁器が出土してゐる。

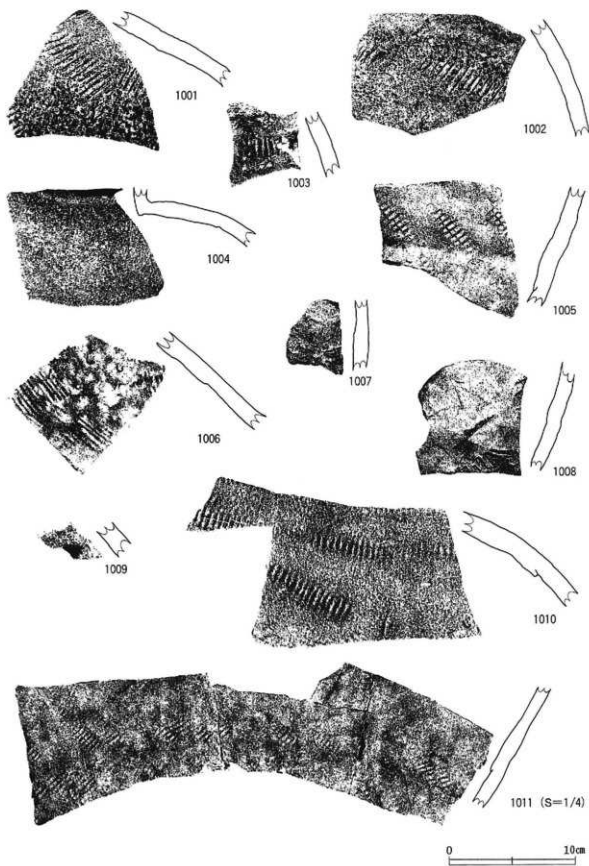
壁土は、これまでに(財)文化振興事業団埋蔵文化財センターと岩手県教育委員会が調査した分で大コンテナ7箱以上は出土しているようである。不掲載遺物の中まで確認していないためまだ正確な量を把握したとはいえないが、代表的な資料を写真で掲載した(31SE 7、52SE 8出土)。表面に白土(漆喰ではなく)を塗っているものと何も塗っていないものがある。木鐸までの厚みは1.5から3cmが多い。壁の縁辺部をなしていたであろう資料や胎土にかわらけ細片を含んでいる例もあった。



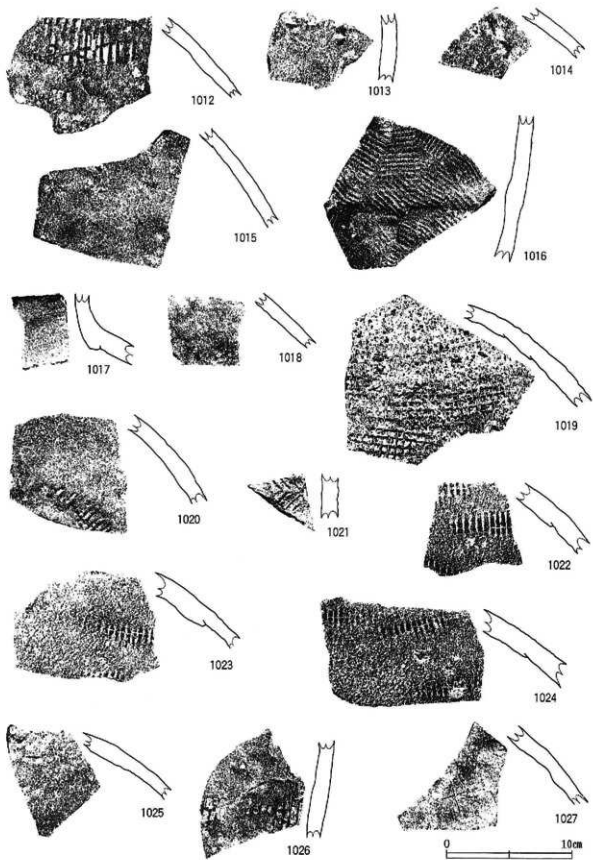
第16図 かわらけ(1)



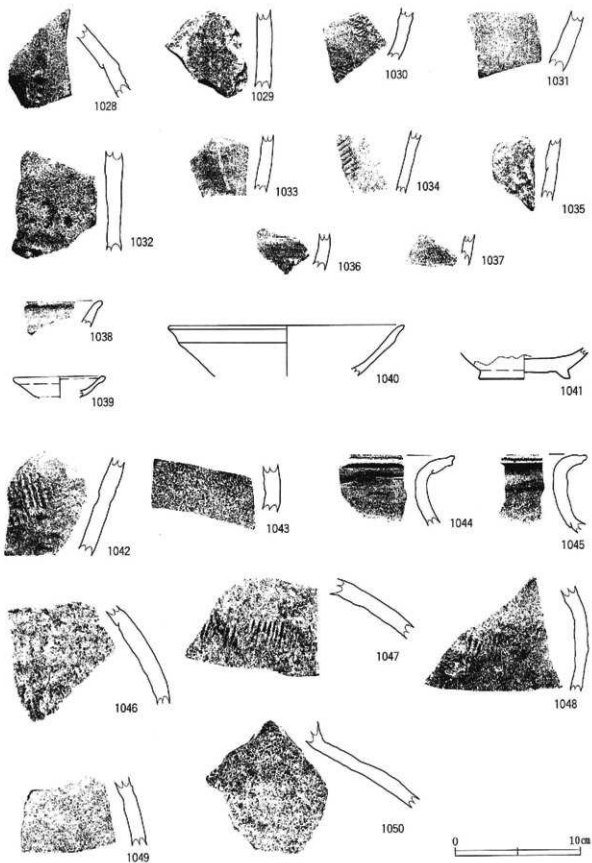
第17図 かわらけ(2)



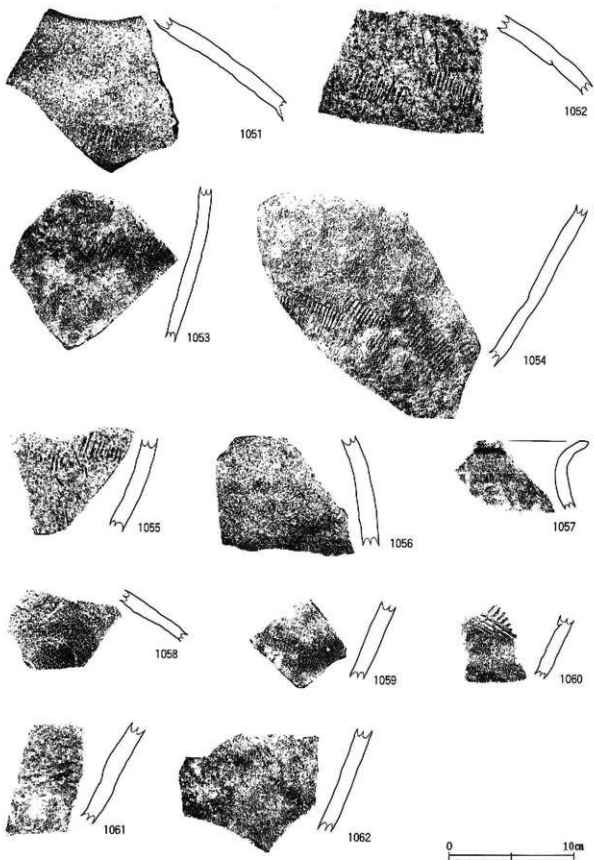
第18図 渥美産陶器（1）



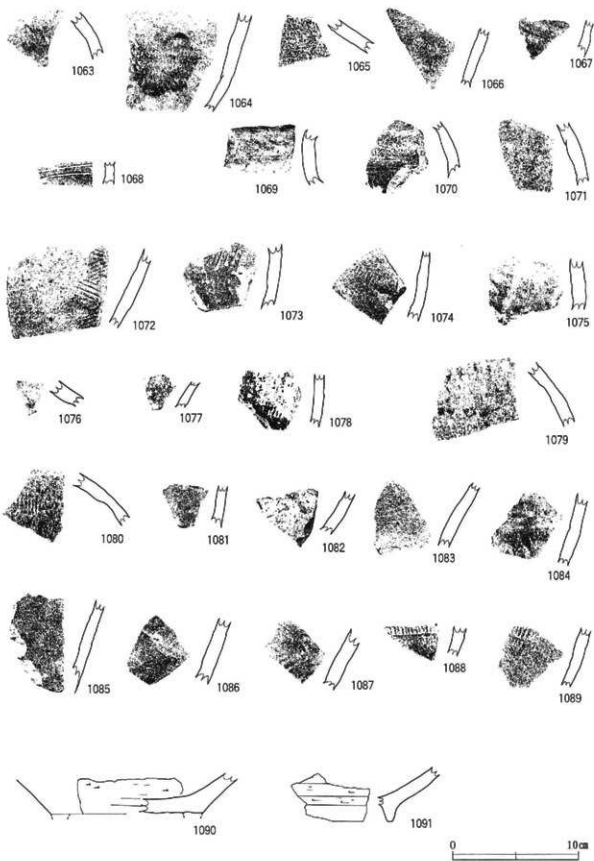
第19圖 瀨美産陶器（2）



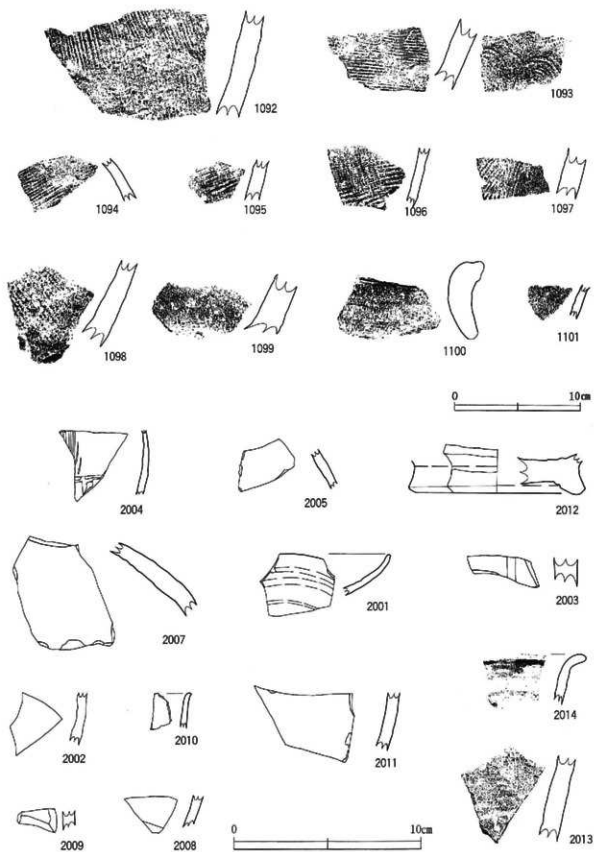
第20図 瀬美産陶器(3)・常滑産陶器(1)



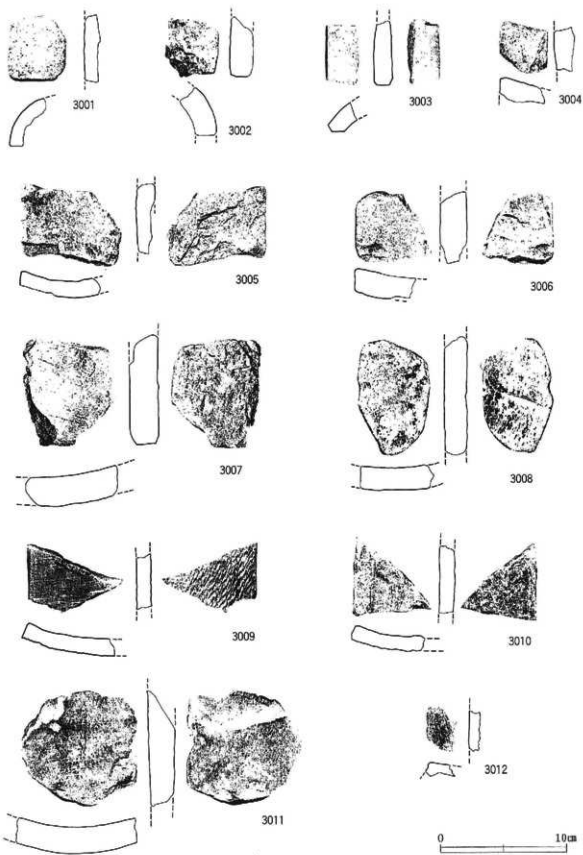
第21圖 常滑産陶器（2）



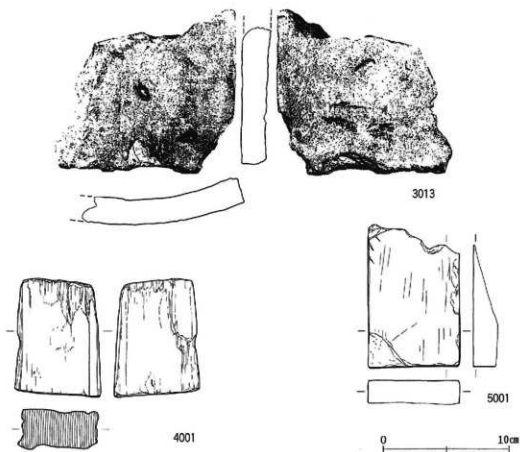
第22図 常滑産陶器（3）



第23図 須恵器系陶器・中国産陶磁器ほか



第24圖 瓦(1)



第25図 瓦(2)・その他の遺物

柳之御所遺跡59次調査 瓦観察表

番号	器種	出土地点	その他
3001	丸瓦	23SG1, T1a (1~7層), 74-81~79-81	軟質な粘土, 風化がすすんでいる
3002	丸瓦	23SG1, T1, 74-81~75-81北平	軟質な粘土, 風化がすすんでいる
3003	丸瓦	23SG1, T1d (3~6層)	硬質な焼き上がり
3004	平瓦	23SG1, T1a (1~7層), 74-81~75-81	硬質な焼き上がり
3005	平瓦	23SG1, T1a (1~7層), 74-81~75-81	砂粒が多くやや軟質な粘土
3006	平瓦	23SG1, T1a (1~12層)	砂粒が多く軟質な粘土
3007	平瓦	23SG1, T1a (1~12層)	やや硬質な焼き上がり
3008	平瓦	23SG1, 74-81~75-81北平	軟質な粘土
3009	平瓦	23SG1, T1d	軟質な粘土
3010	平瓦	23SG1, T1d (3~6層)	やや硬質な焼き上がり
3011	平瓦	P617強土	やや軟質な粘土, 表面は傷けたようになっている
3012	平瓦	59SD4 横出面	やや軟質な粘土, 表面は傷けたようになっている
3013	平瓦	67-44横出面	砂粒が多くやや軟質な粘土, 表面は風化している

柳之御所遺跡59次調査 木製品観察表

番号	器種	出土地点	法量 (cm)			その他
			最大長	最大幅	厚さ	
4001	不明	23SG1, T4, 2層	9.4	6.8	3.2	

単位: cm

番号	出土位置	分類	口径	底径	器高	胎土	残存率(%)
1	P557, 3層	ロクロ小	9.2	5.9	2.0	骨針	50
2	P557, 3層	ロクロ小	8.3	6.0	1.7	骨針	100
3	P557, 3層	ロクロ小	8.8	5.5	1.9	骨針	80
4	P557, 3層	ロクロ小	8.8	5.8	2.0	骨針	50
5	P557, 3層	ロクロ小	8.0	5.2	1.5	骨針	60
6	P557, 3層	ロクロ小	8.9	6.4	1.7	骨針	80
7	P557, 3層	ロクロ小	8.6	6.4	1.9	骨針	60
8	P557, 3層	ロクロ小	9.0	5.0	2.1	骨針	40
9	P557, 3層	ロクロ大	14.9	7.4	3.2	骨針	70
10	P557, 3層	ロクロ大	14.2	7.0	3.8	骨針	90
11	P557, 3層	ロクロ大	13.0	7.5	4.3	骨針	50
12	P557, 3層	ロクロ大	13.8	6.4	4.0	骨針	50
13	P557, 3層	ロクロ大	14.2	6.3	4.4	骨針	70
14	P557, 3層	C 4	8.8	-	2.1		80
15	P557, 3層	D 2	10.3	-	1.4		95
16	P557, 3層	D 2	8.6	-	1.6		50
17	P557, 3層	D 2	9.0	-	2.0		100
18	P557, 3層	D 3	9.1	-	2.1		60
19	P557, 3層	D 3	8.8	-	1.5		95
20	P557, 3層	D 3	8.5	-	1.7		95
21	P557, 3層	D 3	8.2	-	2.0		100
22	P557, 3層	D 3	8.5	-	1.9		95
23	P557, 3層	D 3	8.4	-	1.9		100
24	P557, 3層	D 3	9.7	-	2.0		80
25	P557, 3層	D 4	7.3	-	1.5		75
26	P557, 3層	D 4	8.3	-	1.8		100
27	P557, 3層	C 3	12.1	-	3.3		30
28	P557, 3層	C 4	12.8	-	3.0		100
29	P557, 3層	C 4	12.3	-	3.0		80
30	P557, 3層	C 5	14.4	-	2.8		90
31	P557, 3層	C 5	12.2	-	3.0		45
32	P557, 3層	D 2	14.2	-	3.3		40
33	P557, 3層	D 3	13.4	-	2.8		45
34	P557, 3層	D 3	14.6	-	3.0		70
35	P557, 3層	D 4	11.5	-	2.8		100
36	P557, 3層	D 4	13.0	-	2.9		45
37	P557, 3層	D 4	13.0	-	2.6		95
38	P557, 3層	D 4	12.6	-	2.2		60
39	P557, 3層	D 4	12.6	-	2.5		80
40	P557埋土	ロクロ小	9.0	6.6	1.7	骨針	80
41	P557埋土	ロクロ小	8.8	5.2	1.9	骨針	45
42	P557埋土	C 4	13.3	-	2.8		95
43	P565埋土	ロクロ大	13.5	6.6	4.1	骨針	30
44	P569埋土	D 2	13.0	-	2.3	骨針	30
45	P569埋土	D 4	13.4	-	2.4		20
46	P570埋土	ロクロ小	8.1	6.0	1.4	骨針、砂多	80
47	P570埋土	D 4	12.9	-	3.0		25
48	P579埋土	ロクロ大	14.1	8.8	4.1	骨針	30
49	P580埋土	ロクロ小	8.6	6.4	1.9	骨針	40
50	P580埋土	ロクロ大	12.4	6.0	3.3	骨針	20
51	P605①	ロクロ小	7.8	5.5	1.6	骨針	95
52	P605, 1層	ロクロ小	9.2	5.8	2.2	骨針、粗砂多	80
53	P605②	D 4	9.4	-	2.0		90
54	P605, 4層	ロクロ大	14.8	7.6	3.9	骨針、砂多	80
55	P605, 2~3層	ロクロ大	13.8	5.8	4.0	骨針	70
56	P617埋土	ロクロ大	13.5	-	(2.9)	骨針	20
57	P654埋土	ロクロ大	13.4	7.2	4.0	骨針	25
58	P659埋土	ロクロ大	13.8	7.1	3.0	骨針	40
59	23 S G 1, T1a, 14~15層上面	D 3	8.1	-	1.8		50
60	23 S G 1, T1d, 23	ロクロ小	8.4	5.6	1.6	骨針	75
61	23 S G 1, T1d	ロクロ小	8.3	5.2	2.0	骨針	100
62	23 S G 1, T1d	ロクロ小	8.8	5.0	1.9	骨針	90
63	23 S G 1, T1d	ロクロ大	14.2	6.8	3.6	骨針	25
64	23 S G 1, T1d, 33	D 2	8.8	-	1.7		95
65	23 S G 1, T1d, 1	D 3	8.5	-	1.7		100
66	23 S G 1, T1d, 42	D 3	8.5	-	1.8		95
67	23 S G 1, T1d, 4b	D 3	7.7	-	1.6		30

柳之御所遺跡59次調査 かわらけ観察表

番号	種類	器種	部位	出土位置	年代など	その他	口径	底径	器高
1001	深美	瓶	体部上半	59S D 4	12C				
1002	深美	瓶	体部上半	59S D 4	12C				
1003	深美	瓶	体部上半	59S D 4 埋上	12C				
1004	深美	瓶	体部上半	59S D 4	12C				
1005	深美	瓶	体部下半	59S D 4 埋上	12C				
1006	深美	瓶	体部上半	59S D 4 埋上	12C				
1007	深美	瓶	体部上半	59S D 4 検出時	12C				
1008	深美	瓶	体部下半	59S D 4 検出時	12C				
1009	深美	瓶	体部上半	59S D 4 検出時	12C				
1010	深美	瓶	体部上半	59S D 4 検出時	12C				
1011	深美	瓶	体部下半	59S D 4 検出時 67-44検出面	12C	4片接合			
1012	深美	瓶	体部上半	59S D 7 埋上	12C				
1013	深美	瓶	体部上半	42S D 1 検出面	12C				
1014	深美	瓶	体部上半	P 240埋上	12C				
1015	深美	瓶	体部上半	P 240埋上	12C				
1016	深美	瓶	体部下半	P 240埋上	12C				
1017	深美	瓶	頸部	P 582埋上	12C				
1018	深美	瓶	体部上半	59S K 2 検出面	12C				
1019	深美	瓶	体部上半	59S K 5、2層	12C				
1020	深美	瓶	体部上半	67-44検出面	12C				
1021	深美	瓶	体部	67-44検出面	12C				
1022	深美	瓶	体部上半	67-44検出面	12C				
1023	深美	瓶	体部上半	67-44検出面	12C				
1024	深美	瓶	体部上半	67-44検出面	12C				
1025	深美	瓶	体部上半	67-44検出面	12C				
1026	深美	瓶	体部下半	97-67周辺部検出面	12C				
1027	深美	瓶	不明	87-58周辺部検出面	12C				
1028	深美	瓶	体部上半	遺構外	12C				
1029	深美	瓶	体部	遺構外	12C				
1030	深美	瓶	体部	遺構外	12C				
1031	深美	瓶	体部下半	遺構外	12C				
1032	深美	瓶	体部	遺構外	12C				
1033	深美	甕	体部下半	59S K 2 検出面	12C				
1034	深美	甕	体部下半	67-44検出面	12C				
1035	深美	甕	体部下半	遺構外	12C				
1036	深美	甕	体部下半	23S G 1、T 4、3層	12C				
1037	深美	甕	体部下半	遺構外	12C				
1038	深美	山茶碗	口縁部	23S G 1、T 1 c 検出面	12C				
1039	深美	小瓶	口縁部	PS67、3層	12C	7.0	-	(1.7)	
1040	深美	山茶碗	口縁部	59S K 2 埋上	12C	18.6	-	(4.0)	
1041	深美	山茶碗	底部	遺構外	12C	-	7.0	(2.5)	
1042	常滑	瓶	体部下半	59S D 4	12C				
1043	常滑	瓶	体部上半	59S D 4 埋上	12C				
1044	常滑	瓶	口縁部	67-44検出面	3層式				
1045	常滑	瓶	口縁部	67-44検出面	3層式				
1046	常滑	瓶	体部上半	67-44検出面	12C				
1047	常滑	瓶	体部上半	67-44検出面	12C				
1048	常滑	瓶	体部上半	67-44検出面	12C				
1049	常滑	瓶	体部上半	67-44検出面	12C				
1050	常滑	瓶	頸部	67-44検出面	12C				
1051	常滑	瓶	体部上半	67-44検出面	12C				
1052	常滑	瓶	体部上半	67-44検出面	12C				
1053	常滑	瓶	体部下半	67-44検出面	12C				
1054	常滑	瓶	体部下半	67-44検出面	12C				
1055	常滑	瓶	体部下半	67-44検出面	12C				
1056	常滑	瓶	体部上半	97-67周辺部検出面	12C				
1057	常滑	瓶	口縁部	遺構外	3層式	口縁部(8.0×4)			
1058	常滑	瓶	体部上半	遺構外	12C	部位自信ない			
1059	常滑	瓶	体部下半	遺構外	12C				
1060	常滑	瓶	体部下半	遺構外	12C				
1061	常滑	瓶	体部下半	遺構外	12C	口縁部(8.0×4)			
1062	常滑	瓶	体部下半	遺構外	12C				
1063	常滑	甕	体部上半	23S G 1、T 1 C 検出面	12C				
1064	常滑	甕	体部下半	23S G 1、T 4	12C				
1065	常滑	甕	体部上半	59S D 4 検出面	12C				
1066	常滑	甕	体部下半	59S D 4 埋上	12C				
1067	常滑	甕	体部下半	59S D 4 検出面	12C				

柳之御所遺跡59次調査 国産陶器観察表(1)

番号	種類	器種	部位	出土位置	年代など	その他	口径	底径	器高
1068	常滑	壺	体部	59 S K 5、1層	12C	沈線			
1069	常滑	壺	口頸部	67-44検出面	3型式				
1070	常滑	壺	体部上半	67-44検出面	12C				
1071	常滑	壺	体部上半	67-44検出面	12C				
1072	常滑	壺	体部下半	67-44検出面	12C				
1073	常滑	壺	体部上半	87-58周辺検出面	12C				
1074	常滑	壺	体部	87-58周辺検出面	12C				
1075	常滑	壺	体部上半	97-67検出面	12C				
1076	常滑	壺	体部上半	59-39~101-71	12C				
1077	常滑	壺	体部下半	59-39~101-71	12C				
1078	常滑	壺	体部	59-39~101-71	12C				
1079	常滑	壺	体部上半	遺構外	12C				
1080	常滑	壺	体部上半	遺構外	12C				
1081	常滑	壺	体部	遺構外	12C				
1082	常滑	壺	体部下半	遺構外	12C				
1083	常滑	壺	体部下半	遺構外	12C				
1084	常滑	壺	体部下半	遺構外	12C				
1085	常滑	壺	体部下半	遺構外	12C				
1086	常滑	壺	体部下半	遺構外	12C				
1087	常滑	壺	体部下半	遺構外	12C				
1088	常滑	壺	体部下半	遺構外	12C				
1089	常滑	壺	体部下半	遺構外	12C				
1090	常滑	片口鉢	底部	97-67周辺検出面	12C		-	12.0	(3.1)
1091	常滑	鉢	底部	59 S D 4 埋土	12C	刷り			
1092	須恵器系	瓶	体部	59 S D 4	12C				
1093	須恵器系	瓶	体部	59 S K 2 検出面	12C	内面当て具痕			
1094	須恵器系	瓶	体部	23 S G 1 T 1 d、1-2層	12C	壺か			
1095	須恵器系	瓶	体部	23 S G 1 T 1 d	12C	壺か			
1096	須恵器系	瓶	体部	97-67検出面	12C	須恵器か			
1097	須恵器系	瓶	体部	97-67周辺検出面	12C				
1098	須恵器系	瓶	体部下半	遺構外	12C				
1099	須恵器系	瓶	体部下半	遺構外	12C				
1100	不明	瓶	口頸部	87-58周辺検出面	12Cか	天地不明			
1101	不明	瓶	体部	遺構外	近世か				

柳之御所遺跡59次調査 国産陶器観察表(2)

番号	種類	器種	部位	出土地点	土層分類	その他	重量 (g)
2001	白磁	皿	口縁部	59 S K 2 検出	V 1 b		7
2002	白磁	壺類	体部	P557、3層	Ⅱ	内外輪	5
2003	白磁	壺類	体部	P565、抜き取り痕	Ⅱ	内外輪	8
2004	白磁	壺類	体部	23 S G 1、T1d	Ⅱ	内外輪	5
2005	白磁	壺類	体部	23 S G 1、T1、74-81~75-81上半	Ⅱ	内外輪	5
2007	白磁	壺類	体部	23 S G 1、T4、7層	Ⅱ	域外	41
2008	白磁	壺類	体部	遺構外	Ⅱ	内外輪	3
2009	白磁	壺類	体部	遺構外	Ⅱ	内外輪	2
2010	白磁	碗皿	口縁部	遺構外	時期不明		1
2011	白磁	壺類	体部	遺構外	Ⅱ	内外輪	15
2012	白磁	壺類	底部	23 S G 1、T1、74-81~75-81上半	Ⅱ	内外輪	44
2013	陶器	壺類	体部	23 S G 1、T1、75-81		絞胎	22
2014	陶器	碗皿か	口縁部	97-67周辺、検出面		骨と混じったような	7

柳之御所遺跡59次調査 中国産陶磁器観察表

柳之御所59次調査 出土遺物一覧表 箱 (42×32×30cm コンテナ) 重量 (g) 掲載・不掲載含めて 片:破片数 重:重量

遺物名	かわらけ	回廊陶器				輸入陶器				瓦				その他				木器・自然遺物等 総数	
		常滑		瀬美	瀬原系	その他	白磁	青磁	白磁	陶器	平瓦	丸瓦	焼土瓦	金銅	その他		他遺物の内容		
		片	重	片	重	片	重	片	重	片	重	片	重	片	重	片			重
P001, 埴土	35																		
P124, 埴土	5																		
P133, 埴土	10																		
P134, 埴土	10																		
P165, 埴土	2																		
P169, 埴土	2																		
P179, 埴土	10																		
P176, 埴土	10																		
P194, 埴土	5																		
P195, 埴土	15																		
P002, 埴土	80																		
P212, 埴土	20																		
P214, 埴土	30																		
P216, 埴土	85																		
P218, 埴土	80																		
P235, 埴土	8																		
P239, 埴土	2																		
P240, 埴土	0																		
P241, 埴土	25																		
P253, 埴土	20																		
P256, 埴土	10																		
P277, 埴土	0																		
P276, 埴土	50																		
P287, 埴土	20																		
P288, 埴土	10																		
P289, 埴土	10																		
P292, 埴土	60																		
P300, 埴土	45																		
P301, 埴土	40																		
P302, 埴土	50																		
P304, 埴土	2																		
P037, 埴土	20																		
P375, 埴土	3800																		
P379, 埴土	100																		
P389, 埴土	920																		
P396, 埴土	600																		
P046, 埴土	6																		
P404, 埴土	965																		
P415, 埴土	440																		
P045, 埴土	5																		
P459, 埴土	430																		

遺物名	かわらけ	回廊陶器				輸入陶器				瓦				その他				木器・自然遺物等 総数	
		常滑		瀬美	瀬原系	その他	白磁	青磁	白磁	陶器	平瓦	丸瓦	焼土瓦	金銅	その他		他遺物の内容		
		片	重	片	重	片	重	片	重	片	重	片	重	片	重	片			重
P681, 埴土	15																		
P684, 埴土	40																		
P688, 埴土	60																		
P691, 埴土	120	1	15																
P695, 埴土	10																		
P694, 埴土	5																		
P520, 埴土	400																		
P543, 埴土	620																		
P557, 3冊	2800																		
P557, P611	40																		
P557, 埴土	5470																		
P656, 埴土	15																		
P560, 埴土	280																		
P560, 埴土	750																		
P561(P610), 抜き取り	2590																		
P565, 埴土	390																		
P565, 埴土	5060																		
P565, 埴土	1110																		
P569, 埴土	3370																		
P570, 埴土	4545																		
P578, 埴土	40																		
P579, 埴土	1640																		
P580, 埴土	2950																		
P580-P609, 埴土	260																		
P582, 埴土	1110																		
P583, 埴土	100																		
P601~P613, 埴土	40																		
P605, 1~3冊	1070																		
P605, 1冊	670																		
P605, 2~3冊	1470																		
P605, 2・3冊	1300																		
P605, 4冊	750																		
P605, 4冊	1300																		
P605, 陶面	90																		
P605, 埴土	6																		
P609a, 埴土	20																		
P610, 埴土	500																		
P612, 埴土	30																		
P617, 埴土	800																		
P618, 埴土	2480																		
P619, 埴土	60																		

遺 蹟 名	かわらけ	国産陶磁器				輸入陶磁器				瓦				その他		木器・自然遺物等
		常滑	高岡	瀬戸	その他	白磁	青磁	白磁	陶器	平瓦	丸瓦	塼土瓦	会城瓦	高岡物	その他	
P 623, 埴土	149															
P 651, 埴土	169															
P 654, 埴土	220															
P 655, 埴土	220															
P 658, 埴土	1180															
P 663, 埴土	43															
P 967, 埴土	2															
P 971, 埴土	40															
P 801, 焼物	55															
P 829-P 830, 焼物	30															
P 837, 焼物	40															
P 855, 焼物	40															
42S D 1, 埴土	0															
42S D 1, 埴土	6120	1	65	1	75											
58S D 1, 焼物	5															
59S D 4, 焼物	40															
59S D 6L 1-10	170															
59S D 6L, 焼物	700	2	20	6	1796											
59S D 6L, 埴土	420	4	250	6	1228	1	290									
59S D 67 埴土	0				1	175										
59S K 2, 埴土	496		2	90	1	90										
59S K 2, 埴土	560				1	40										
59S K 3, 1層	230	1	10													
59S K 3, 2層	500				1	435										
59S K 3, 4層	570															
59S K 3, 5層下層	200															
59S K 3, 埴土	200				2	190										
59S K 4, 埴土	240															
P 294と切り合う土瓦	0															
100-71坑取土	120															
28S 重 4 村田 瓦屋外、埴土	40															
59-39~101 ~71, 焼物	1155	3	40													
59-39-72-17	0					1	5									
59-59付泥	250															
67-1坑, 焼物	21	16	203	9	300											
69-1坑, 焼物	10															
70-45, 焼物	400															
71-72, 焼物	15															
71-65, 焼物	10															

遺 蹟 名	かわらけ	国産陶磁器				輸入陶磁器				瓦				その他		木器・自然遺物等									
		常滑	高岡	瀬戸	その他	白磁	青磁	白磁	陶器	平瓦	丸瓦	塼土瓦	会城瓦	高岡物	その他										
75-68	5																								
76-70, 焼物	5																								
76-71, 焼物	10																								
77-67, 焼物	10																								
82-67-84 -71, 焼物	50																								
82-67-84 -71, 焼物	20															10									
83-59付泥, 埴土	0	1	100																						
84-67, 焼物	160																								
84-68, 焼物	150																								
84-69, 焼物	460															20									
87-58附泥, 焼物	1675	2	70	1	30			1	130							出20点, 追加5									
88-59付泥, 焼物	465	1	60																						
89-59付泥, 不明穴、埴土	150																								
90-43坑の北東	125																								
96-67付泥, 焼物	320											1	10												
97-67, 焼物	530	5	280	3	230	2	90																		
遺跡外	9070	17	875	8	480	3	190					4	25			140	5	石 2 土器 1 瓦 34 土器 5							
発掘停止	14180				2	70										10	210	計16点, 追加4点, 土器 5							
不明	540	1	10															瓦 1							
合 計	115471	55	696	54	698	7	650	2	150	8	58	0	0	0	0	1	10	3	725	0	0	5	920	0	290

柱次番号	標高(m)	深さ(cm)	備 考	柱次番号	標高(m)	深さ(cm)	備 考	柱次番号	標高(m)	深さ(cm)	備 考
P1	未測			P66	26.92	35.4		P132	未測		
P2	27.25	25.8		P67	未測			P133	未測		
P3	27.23	27.6		P68	未測			P134	未測		
P4	27.19	34.8		P69	27.29	7.7		P135	未測		
P5	27.23	27.6		P70	27.33	7.3		P136	27.06	23.7	28SB2
P6	27.22	34.8		P71	27.31	50.0		P137	27.13	19.3	
P7	27.19	13.3		P72	27.26	9.3		P138	未測		
P8	27.21	11.3		P73	27.18	9.2		P139	27.12	43.5	
P9	27.26	21.5		P74	27.15	55.9		P140	未測		
P10	27.14	48.6		P75	27.15	28.9		P141	27.15	62.0	
P11	27.20	44.3		P76	27.16	52.4		P142	27.11	73.6	28SB2
P12	27.19	11.1		P77	27.16	6.6		P143	27.15	25.5	
P13	27.24	34.2		P78	27.14	17.4		P144	27.04	48.0	
P14	27.28	13.5		P79	27.11	16.0		P145	27.07	16.0	
P15	27.27	12.3		P80	27.12	30.7		P146	27.06	40.3	
P16	27.27	14.3		P81	未測			P147	27.08	31.6	
P17	27.24	22.6		P82	26.88	39.6		P148	26.93	6.0	
P18	27.18	46.2		P83	26.82	27.5		P149	26.92	19.6	
P19	27.20	31.8		P84	26.91	52.0		P150	27.09	28.4	
P20	27.16	7.2		P85	26.95	39.2		P151	27.16	45.8	28SB2
P21	27.19	44.8		P86	26.93	19.7		P152	27.16	41.3	
P22	27.24	48.1		P87	26.97	14.0		P153	未測		
P23	27.26	37.7		P88	26.92	10.6		P154	未測		
P24	27.25	16.3		P89	未測			P155	未測		
P25	27.20	62.8		P90	未測			P156	27.16	108.7	28SD6
P26	27.16	26.6		P91	27.11	42.8		P157	27.09	41.0	28SB1
P27	27.34	19.7		P92	未測			P158	27.13	26.7	
P28	27.30	20.2		P93	27.08	55.2		P159	27.18	35.0	
P29	未測			P94	27.04	42.2		P160	27.16	31.0	
P30	27.25	14.7		P95	27.02	35.5		P162	未測		
P31	27.18	15.9		P96	26.96	20.0		P163	未測		
P32	27.21	12.0		P97	未測			P164	27.16	13.6	
P33	27.23	17.6		P98	未測			P165	27.12	8.4	
P34	27.24	18.9		P99	未測			P166	27.20	37.0	
P35	27.07	11.7		P100	27.00	19.0		P167	未測		
P36	未測			P101	27.05	39.6		P168	未測		
P37	27.13	25.5		P102	未測			P169	未測		
P38	27.12	22.0		P103	26.96	38.5		P170	未測		
P39	27.11	36.1		P104	26.97	21.3		P171	未測		
P40	27.08	29.0		P105	26.92	35.0		P172	未測		
P41	27.20	8.3		P106	26.94	17.4		P173	未測		
P42	27.15	11.9		P108	26.90	36.5		P174	未測		
P43	27.10	22.0		P109	未測			P175	未測		
P44	27.18	6.1		P110	26.92	30.2		P176	27.12	6.3	
P45	27.11	12.3		P111	26.89	29.5		P177	27.20	20.7	
P46	27.07	30.9		P112	26.88	10.7		P178	27.15	25.6	
P47	27.14	18.4		P113	26.85	7.7		P179	27.24	27.5	
P48	27.13	25.0		P114	26.92	29.1		P180	27.11	8.8	
P49	27.09	21.7		P115	26.85	24.4		P181	27.20	13.1	
P50	未測			P116	未測			P182	27.19	26.4	
P51	27.13	12.5		P117	26.79	19.6		P183	27.28	21.2	
P52	未測			P118	28.94	33.7		P184	27.27	26.4	
P53	27.05	56.2		P119	28.78	20.8		P185	未測		
P54	27.02	14.2		P120	28.85	21.5		P186	27.09	31.9	
P55	27.00	28.1		P121	未測			P187	26.89	27.0	28SB2
P56	未測			P122	未測			P188	26.78	15.7	
P57	27.10	24.1		P123	未測			P189	26.78	7.8	
P58	27.29	25.6		P124	未測			P190	未測		
P59	27.33	24.8		P125	27.08	18.7	28SB2	P191	27.14	14.7	
P60	27.32	8.7		P126	未測			P192	26.78	44.3	
P61	27.13	30.4		P127	未測			P193	28.81	17.0	
P62	27.10	36.4		P128	27.13	51.2	28SB2	P194	28.75	25.4	
P63	27.09	11.2		P129	27.14	6.0		P195	28.71	23.1	
P64	27.06	16.5		P130	未測			P196	28.65	27.9	
P65	26.88	34.4		P131	27.17	33.7	28SB2	P197	28.60	25.5	

柱穴計測表(1)

柱穴番号	標高(m)	深さ(cm)	備 考	柱穴番号	標高(m)	深さ(cm)	備 考	柱穴番号	標高(m)	深さ(cm)	備 考
P198	28.65	18.3		P263	27.10	4.9	28SD1	P331	26.91	5.2	
P199	28.62	24.7		P264	27.03	48.7	28SD1	P332	26.99	7.2	
P200	28.63	28.0		P265	27.00	21.1		P333	26.90	25.4	
P201	26.72	6.2		P266	26.92	21.7		P334	26.94	39.2	
P202	26.69	46.2		P267	27.01	16.5		P335	26.99	28.8	
P203	26.57	11.3		P268	27.03	27.0		P336	未掘		
P204	26.39	42.7		P269	27.10	43.5		P337	未掘		
P205	26.45	29.3		P270	27.13	22.0		P338	26.96	11.0	
P206	28.49	12.1		P271	27.12	32.1		P339	26.94	12.8	
P207	28.35	14.9		P272	27.11	69.2	28SD1	P340	26.92	41.8	28SD1
P208	28.58	25.8		P273	27.15	37.5		P341	28.04	12.3	
P209	28.50	30.0		P274	27.06	50.0	28SD1	P342	28.06	36.0	
P210	28.54	19.9		P276	未掘			P343	28.09	15.5	
P211	28.46	17.1		P277	未掘			P344	26.92	17.6	
P212	28.45	29.4		P278	未掘			P345a	26.93	40.0	28SD1
P213	28.25	13.8		P279	27.10	21.7		P345b	26.93	30.0	28SD6
P214	28.08	15.8		P280	27.15	38.1		P346	27.06	19.9	
P215	28.18	13.0		P281	27.29	45.0		P347	27.01	32.9	28SD2
P216	28.17	21.8		P282	未掘			P348	26.99	67.0	28SD3
P217	28.18	10.8		P283	27.28	5.8		P349a	26.94	68.2	28SD1
P218	28.14	31.7		P284	27.24	23.4		P349 b	26.89	35.6	
P219	28.16	33.0		P285	未掘			P350	26.91	14.4	
P220	28.11	17.7		P286	27.18	33.5	28SD6	P351	26.97	24.2	28SD2
P221	28.31	39.2		P287	未掘			P352	27.02	6.3	
P222	28.10	15.2		P288	未掘			P353	27.01	6.2	
P223	26.53	37.6		P289	未掘	28SD1		P354	26.99	17.4	
P224	26.34	4.8		P290	27.15	38.1		P355	26.94	5.3	
P225	26.51	7.0		P291	27.17	37.1		P356	26.95	11.2	
P226	26.37	9.4		P292	27.12	30.9		P357	26.95	5.0	
P227	未掘			P293	27.12	28.4		P358	26.92	6.2	
P228	26.39	33.4		P294	27.15	35.2		P359	26.94	16.3	
P229	26.41	22.0		P295	27.21	27.1		P360	27.04	13.6	
P230	28.11	13.8		P296	27.17	16.3		P361	27.03	11.4	
P231	28.16	15.9		P297	27.12	22.2		P362	27.01	9.6	
P232	27.05	17.3		P298	未掘			P363	27.19	15.1	
P233	27.04	16.8		P299	27.13	8.4		P364	26.89	8.3	
P234	26.99	52.8		P300	未掘			P365	27.04	31.7	
P235	27.97	23.7		P301	未掘			P366	26.94	14.5	
P236	28.06	13.0		P302	27.11	45.2		P367	26.99	24.2	
P237	27.97	16.6		P303	26.96	25.6		P368	26.95	23.7	28SD2
P238	27.89	27.7		P304	27.13	30.7		P369	26.80	13.6	28SD2
P239	28.01	18.8		P305	27.08	47.5	28SD2	P370	26.92	5.2	
P240	28.06	14.5		P306	未掘			P371	27.11	4.3	
P241	28.10	10.7		P307	27.09	6.5		P372	27.07	32.5	28SD2
P242	27.32	7.9		P309	27.04	21.8		P373	26.86	28.9	28SD2
P243	27.31	20.0		P310	27.01	62.4	28SD2	P374	27.11	3.7	
P244	27.31	25.8		P311	27.04	18.4		P375	26.53	24.2	28SD4
P245	27.28	24.5		P313	27.10	14.4		P376	26.69	28.0	
P246	27.29	21.8		P314	27.17	38.0	28SD1	P378	未掘		
P247	27.30	38.7		P315	27.17	41.8	28SD2	P379	26.81	45.0	28SD4
P248	27.33	25.5	28SD6	P316	27.15	34.8	28SD1	P380	26.33	35.6	
P249	27.29	15.6		P317	27.17	17.6		P381	26.83	38.5	
P250	27.28	19.8		P318	27.12	10.0		P382	26.32	33.1	28SD4
P251	27.28	29.4		P319	27.09	49.6	28SD1	P383	26.51	25.4	
P252	27.29	42.0		P320	27.07	33.9	28SD2	P384	26.80	18.4	28SD1
P253	27.29	60.4		P321	27.06	33.0	28SD1	P386	26.59	14.1	
P254	27.28	6.8		P322	27.03	0.8		P387	26.58	4.6	
P255	27.22	4.7		P323	27.08	21.8		P388	26.68	50.3	28SD6
P256	27.18	8.9		P324	27.06	25.2	28SD2	P390	26.53	48.1	28SD4
P257	未掘			P325	26.56	9.6		P391	26.80	40.3	
P258	27.22	15.6	28SD6	P326	26.88	24.0		P392	未掘		
P259	27.21	39.4	28SD1	P327	27.05	39.6		P393	26.85	40.1	
P260	26.99	41.3	28SD1	P328	27.06	16.8		P394	26.54	34.3	
P261	27.12	31.0		P329	27.01	26.0	28SD4	P395	26.49	17.8	
P262	27.06	4.6		P330	26.96	21.2		P396	26.72	24.5	28SD1

柱穴計測表(2)

柱穴番号	標高(m)	深さ(cm)	備考
P097	26.74	23.8	
P098	26.79	48.8	
P099	26.83	28.4	
P400	26.86	11.8	28SD6
P401	26.97	10.6	
P402	26.92	4.1	
P403	26.56	13.1	
P404	26.57	5.2	
P405	26.56	39.8	
P406	未掘		
P407	26.59	5.3	
P408	26.37	10.6	28SD4
P409	26.96	7.3	
P410	26.89	6.4	
P411	未掘		
P412	26.90	60.5	28SD1
P413	26.71	13.6	28SD4
P414	未掘		
P415	未掘		
P416	未掘		
P417	26.37	32.9	
P418	未掘		
P419	26.49	22.7	
P420	26.69	18.0	
P421	26.67	45.3	28SD3
P422	未掘		
P423	26.74	16.3	
P424	未掘		
P425a	26.35	11.8	
P425b	26.36	78.7	28SD4
P426	未掘		
P427	26.58	18.4	
P428	26.74	5.4	
P429	未掘		
P430	26.41	27.5	28SD4
P431	未掘		
P432	未掘		
P433	26.71	15.0	
P434	26.72	33.4	
P435	未掘		
P436	26.87	68.7	28SD3
P437	未掘		
P438	未掘		
P439	26.76	23.5	
P440	未掘		
P441	26.91	23.2	
P442	未掘		
P443	未掘		
P444	未掘		
P445	未掘	28SD3	
P446	26.88	42.1	28SD6
P447	26.90	13.8	
P449	26.90	34.9	28SD1
P450	未掘		
P451	26.79	61.1	
P452	26.59	6.7	
P453	未掘		
P454	未掘		
P456	26.58	8.1	
P457	未掘		
P458	未掘		
P459a	未掘		
P459b	26.60	19.7	28SD4
P460	26.85	24.2	28SD1
P461	27.40	10.8	

柱穴番号	標高(m)	深さ(cm)	備考
P462	26.78	17.7	
P463	26.85	4.1	
P464	27.38	8.5	
P465	26.85	46.8	
P466	26.83	45.9	28SF1
P467	26.85	40.1	
P468	26.57	64.5	28SD4
P469	26.84	3.4	
P470	未掘		
P471	27.38	17.5	
P473			
P474	27.41	22.3	
P475	27.42	17.8	5SSH6
P476	27.39	12.4	
P477	27.36	23.7	5SSB6
P478	27.33	24.7	5SSD5
P479	27.34	38.3	
P480	27.32	17.0	5SD5
P481	未掘		
P482	27.37	27.7	5SSH5
P483	未掘		
P484	27.33	2.2	
P485	未掘		
P486	未掘		
P487	未掘		
P488	27.32	16.5	
P489	未掘		
P490	未掘		
P491	未掘		
P492	未掘		
P493	未掘		
P494	27.14	14.7	
P495	27.17	16.4	
P496	27.17	21.4	
P497	未掘		
P498	27.15	8.1	
P499	未掘		
P500	27.13	28.9	
P501	未掘		
P502	27.08	19.8	
P503	未掘		
P504	未掘		
P505	26.67	26.8	
P506	26.68	34.6	
P507	26.82	106.2	28SD3
P508	未掘		
P509	26.64	39.2	
P510	26.62	9.7	
P511	26.64	4.8	
P512	26.67	45.6	28SD3
P513	26.61	43.5	28SD4
P514	26.64	17.8	
P515	26.62	48.9	28SD4
P516	26.34	146.6	28SD4
P517	未掘		28SD4
P518	未掘		
P519	未掘		28SD4
P520	未掘	28SD4	
P521	26.57	41.5	28SD4
P523	26.52	43.9	28SD4
P524	26.60	38.7	
P525	26.83	13.2	
P526	26.76	12.2	
P527	未掘		
P528	未掘		

柱穴番号	標高(m)	深さ(cm)	備考
P529	未掘		
P530	未掘		
P531	未掘		
P535	26.65	17.2	
P536	26.74	20.9	
P537	26.75	12.2	
P538	26.83	4.8	
P539	26.78	3.4	
P540	未掘		28SD4
P541	未掘		
P542	未掘		
P543	未掘		28SD4
P544	未掘		
P545	26.92	39.7	
P546	26.94	9.0	
P547	未掘		
P548	26.88	10.9	
P549	未掘		
P550	未掘		
P551	26.85	11.4	
P552	未掘		
P553	未掘		
P554	未掘		
P555	未掘		
P556	未掘		
P557	未掘		28SD4
P558	未掘		28SD4
P559	未掘		28SD4
P560	未掘		28SD4
P561	26.28	0.3	28SD4
P562	未掘		28SD4
P563	未掘		28SD4
P564	未掘		28SD4
P565	26.66	78.5	28SD4
P566	26.56	37.6	
P567	未掘		
P568	未掘		
P569	26.64	49.7	28SD4
P570	26.74	54.8	28SD4
P571	未掘		
P572	26.57	3.7	
P573	26.55	18.8	
P574	26.55	16.0	
P575	未掘		
P576	未掘		
P577	未掘		28SD4
P578	未掘		28SD4
P579	未掘		28SD4
P580	26.69	64.6	28SD4
P581	26.66	66.3	28SD4
P583b	26.83	12.2	
P583a	未掘		
P584	未掘		
P585	26.61	8.7	
P586	26.65	7.2	
P587	26.64	5.9	
P588	未掘		
P589	未掘		
P591	未掘		
P592	27.40	17.7	
P593	未掘		
P594	未掘		
P595	未掘		
P596	未掘		
P597	未掘		

柱穴計測表(3)

柱穴番号	標高(m)	深さ(cm)	備 考
P598	未掘		
P599	26.52	31.0	
P600	26.36	19.2	
P601	未掘		
P602	未掘		28SB4
P603	未掘		
P604	未掘		
P605	26.58	40.3	
P606	未掘		
P607	未掘		
P608	未掘		
P609	26.69	64.6	
P611	未掘		
P612	未掘		
P613	未掘		
P614	未掘		
P615	未掘		
P616	未掘		
P617	未掘		
P618	未掘		
P619	未掘		
P620	未掘		
P621	未掘		
P622	未掘		
P624	未掘		
P625	未掘		
P626	未掘		
P627	未掘		
P628	26.65	12.8	
P629	未掘		
P631	26.62	22.5	
P632	26.44	21.2	
P633	26.62	13.1	
P635	26.67	36.3	
P636	未掘		
P637	26.61	18.1	
P638	26.64	21.5	
P639	26.66	32.0	
P640	26.60	18.3	
P641	26.58	12.4	
P642	未掘		
P643	未掘		
P644	26.30	12.4	28SB4
P645	26.83	34.6	
P646	26.76	34.8	
P648	26.69	35.0	
P649	26.73	46.3	
P650	未掘		28SB4
P651	未掘		
P652	未掘		
P653	未掘		
P654	未掘		
P655	未掘		
P656	26.21	26.0	
P657	未掘		28SB4
P658	未掘		
P659	未掘		28SB4
P660	未掘		
P661	未掘		
P662	未掘		
P663	未掘		
P664	未掘		
P665	未掘		
P666	26.21	26.0	
P667	未掘		

柱穴番号	標高(m)	深さ(cm)	備 考
P668	未掘		
P669	未掘		
P670	未掘		
P671	未掘		
P672	未掘		
P673	未掘		
P674	未掘		
P675	未掘		
P676	25.94	8.2	
P677	未掘		
P678	未掘		
P679	未掘		
P680	25.83	21.1	
P681	未掘		
P682	未掘		
P683	未掘		
P684	未掘		
P685	未掘		
P686	未掘		
P687	未掘		
P688	未掘		
P689	未掘		
P690	未掘		
P691	未掘		
P692	未掘		
P693	未掘		
P694	未掘		
P695	未掘		
P696	未掘		
P697	未掘		
P698	未掘		
P699	25.70	15.7	
P700	未掘		
P701	未掘		
P702	未掘		
P703	25.58	12.1	
P704	未掘		
P705	未掘		
P706	未掘		
P707	未掘		
P708	未掘		
P709	未掘		
P710	未掘		
P711	未掘		
P712	未掘		
P713	未掘		
P714	未掘		
P715	未掘		
P716	未掘		
P717	未掘		
P718	未掘		
P719	未掘		
P720	未掘		
P721	未掘		
P722	未掘		
P723	未掘		
P724	未掘		
P725	未掘		
P726	25.91	21.0	
P727	未掘		
P728	未掘		
P729	未掘		28SB4
P730	未掘		
P731	26.14	17.0	
P732	未掘		

柱穴番号	標高(m)	深さ(cm)	備 考
P733	未掘		28SB4
P734	未掘		
P735	未掘		
P736	未掘		
P737	未掘		
P738	25.85	19.5	
P739	25.86	8.1	
P740	未掘		
P741	25.77	27.1	
P742	25.80	19.7	
P743	未掘		
P744	未掘		
P745	未掘		
P746	26.27	40.0	
P747	未掘		
P748	26.03	17.5	
P749	25.93	13.6	
P750	25.94	8.8	
P751	未掘		
P752	未掘		
P753	未掘		
P754	未掘		
P755	未掘		
P756	未掘		
P757	未掘		
P759	未掘		
P761	未掘		
P762	未掘		
P763	未掘		
P764	未掘		
P765	未掘		
P766	未掘		
P767	25.96	11.4	
P768	25.95	17.1	
P769	26.12	24.3	
P770	27.04	10.9	
P781	未掘		
P782	未掘		
P783	未掘		
P784	未掘		
P785	未掘		
P786	未掘		
P787	未掘		
P788	未掘		
P789	未掘		
P790	未掘		
P791	未掘		
P792	未掘		
P793	未掘		
P794	未掘		
P795	未掘		
P796	未掘		
P797	未掘		
P798	未掘		
P799	未掘		
P800	未掘		
P801	未掘		
P803	未掘		
P804	未掘		
P808	未掘		
P810	未掘		
P811	未掘		
P812	未掘		
P814	未掘		
P815	未掘		

柱穴計測表(4)

柱穴番号	標高(m)	深さ(cm)	備 考
P816	未測		
P826	未測		
P877	未測		
P828	未測		
P829	未測		
P830	未測		
P831	未測		
P832	未測		
P833	未測		
P834	未測		
P835	未測		
P836	未測		
P837	未測		
P838	未測		
P839	未測		
P840	未測		
P841	未測		
P842	未測		
P843	未測		
P844	未測		
P845	未測		
P846	未測		
P847	未測		
P848	未測		
P849	未測		
P850	未測		
P851	未測		
P852	未測		
P853	未測		
P854	未測		
P855	未測		
P856	未測		
P857	未測		
P858	未測		
P859	未測		
P860	未測		
P861	未測		

柱穴番号	標高(m)	深さ(cm)	備 考
P862	未測		
P863	未測		
P864	未測		
P865	未測		
P889	27.07	23.7	
P890	27.03	1.4	
P891	27.02	4.6	
P892	27.05	12.2	
P893	26.98	3.6	
P894	27.02	15.3	
P895	27.00	30.4	28SD2
P896	未測		
P897	未測		
P898	未測		
P899	26.95	19.9	
P900	26.80	96.8	28SH3
P901	27.00	15.0	
P902a	26.93	94.4	28SD1
P902b	26.93	58.2	28SB6
P903	未測		
P904	26.77	6.4	
P903	26.76	4.8	
P906	26.77	4.4	
P907	26.50	63.3	28SH4
P908	未測		
P909	未測		
P910	26.63	33.2	
P911	25.54	67.2	
P912	未測		
P913	未測		
P914	未測		
P915	未測		
P916	未測		
P918	25.10	26.6	
P919	未測		
P920	未測		
P921	未測		

柱穴番号	標高(m)	深さ(cm)	備 考
P922	26.62	46.5	
P923	未測		
P924	未測		
P925	未測		
P926	27.30	21.3	28SD6
P927	27.13	60.6	28SB6
P928a	26.92	81.0	28SD6
P928b	26.92	74.8	28SH1
P929a	27.07	65.3	28SD1
P929b	26.93	22.0	28SD2
P930	27.11	53.7	28SD1-6
P931	26.92	103.7	28SB3
P932	27.14	42.1	28SB6
P933	26.87	52.6	28SB3
P934	26.78	50.0	28SB3
P935	26.82	85.9	28SB3
P936	26.83	64.2	28SB3
P937	未測		
P938	26.77	5.5	
P940	26.76	11.0	28SD2
P941	未測		28SD2
P943	26.99	96.5	28SB3
P944	26.96	115.0	28SB3
P945	27.00	56.7	
P946	27.12	62.3	28SB6
P947	26.94	68.5	28SB6
P948	26.97	34.2	28SD2
P949	27.40	32.1	
P950	未測		
P951	未測		
P952	未測		
P953	未測		
P954	未測		
P955	未測		
P956	未測		
P957	未測		
P958	未測		
P959	未測		

柱穴計測表(5)

V まとめ

柳之御所遺跡堀内部地区では、これまでの発掘調査によって遺跡のほぼ中央部に平泉遺跡群の中でも大規模な掘立柱建物跡群や遺物を多量に含む堅穴建物跡を始めとして井戸・土坑群・跡跡などが密集して見つかっている。加えて、これらの遺構群の南西に隣接するように本遺跡内では唯一の池跡も確認されている。こうした遺構群の内容と遺跡内での立地から柳之御所遺跡堀内部地区内でも中心的な機能を有する地区であったと考えられている。国史跡に指定され、遺跡の内容確認調査を継続して行うとともに過去の調査報告を整理する中で、遺構の新旧関係と年代観が不確実なままの遺構があることが問題となってきた。今回の59次調査は、遺構変遷について一定の見通しをつけるため、掘立柱建物跡については遺構復元を念頭に置いて柱径や材質といった情報を得るために改めて調査を実施した。

重複関係 この調査を基にこれまで検出されている遺構の重複関係を一覧表に整理した。

種類	遺構名	本遺構より古い遺構	本遺構より新しい遺構	間接重複 (平面的に重なっている)
掘立柱建物跡	28SB1	28SB6、28SX1、28SE1、28SA1		28SB2、28SE2、28SA3
	28SB2	28SE2	28SE6	28SB1、28SB3、28SB6、28SE7、28SE8、28SE9、28SK11、28SK13、28SA1、28SA3
	28SB3	28SE9	28SE8、28SK11、28SK13	28SB2、28SK15
	28SB4	28SB8	28SE11、28SK14、50SB4	
	28SB6		28SB1、28SE1、28SE2	28SB2、28SA1
	28SB8		28SB4	28SE11
	50SB4	28SB4		
塚跡	28SA1	28SA3	28SD1、28SX1、28SB1	28SB2、28SB6
	28SA3		28SD1、28SA1	28SB1
特	28SX1	28SA1	28SB1	
溝	28SD1	28SA1、28SA3		
井戸跡	28SE1	28SB6	28SB1	
	28SE2	28SB6	28SB2	28SB1
	28SE6	28SB2		
	28SE7			28SB2
	28SE8	28SB3		28SB2
	28SE9		28SB3	28SB2
	28SE11	28SB4		28SB8
土坑	28SK11	28SB3		28SB2
	28SK13	28SB3		28SB2
	28SK14	28SB4		
	28SK15			28SB3

こうした新旧関係を基にした中心域における遺構の変遷については平泉文化研究年報6号(岩手県教育委員会、平成18年3月)にて報告する予定になっている。

掘立柱建物跡 中心域で確認されている建物跡は全て掘立柱建物跡である。28SB1・28SB2・28SB3・28SB4・28SB6・28SB8・50SB4である。この中で遺構検出のみで精査のあまりされなかった28SB4を主に調査している。

上記した掘立柱建物跡(50SB4を除く)は平面規模が大きいだけでなく何れも柱間寸法が揃っており、規格性の高い建物跡であったことが判明した。加えて殆どが南-北軸線を意識して建てられている。柳の御所遺跡堀内部地区では数多くの掘立柱建物跡が確認されているが、柱間寸法がこのように揃う建物跡は認められない。その多くはこれらより小規模なものであるが、平面規模でこれらの建物に匹敵するものに関して柱間寸法には少しばらつきがあるものである。つまり堀内部地区はその中心域に規格性の高い大型の掘立柱建物跡群、その周囲には柱間寸法が少し揃わない掘立柱建物跡群が展開しているのと見ることができ。

柱間尺の規格性が高いといえる掘立柱建物跡は平泉遺跡群の中にも認められるようである。例えば柳の御所遺跡堀外部地区の30SB1・30SB2、倉町遺跡1号建物跡などがそうで、こうした傾向は堀内部地区に限ったものではなく平泉遺跡群の特徴の一つであるといえようである。

これまでの調査で中心域には28SB7という建物跡が考えられていたが除外することにした。この建物跡は建物を構成するはずの柱穴が未検出の箇所が多かった。今回の再調査でも柱穴は見つからず、それは削平だけでは説明できない状況であったため建物跡とは考えないことにした。検出した柱穴に比べると掘立柱建物跡の棟数がかなり少ないので、これからも建物跡の抽出に努めなければならないだろう。

YG59土層注記(1)

P375

- 10YR4/3にぶい黄褐色土 かわらけ細片を大量、炭粒微量、地山ブロック微量含む 粘性やや有、締まっている
- 10YR4/3灰黄褐色土 地山ブロック少量含む 粘性有、締まりやや有

※ 1層は抜き取り、2層は本来の層の黒土

P379

- ※ 1-5層抜き取り ただし、5層は層方の可能性あり
- 10YR4/4褐色土 かわらけ細片大量、炭粒少量含む 粘性弱、締まっている
 - 10YR4/1褐灰色土 かわらけ細片微量、1層及び3層の境には炭がすくなく長く薄積する 粘性、締まりやや有
 - 10YR4/2灰黄褐色土 地山ブロック少量含む 粘性やや有、締まっている 河原石含む
 - 10YR4/2灰黄褐色土 地山ブロック多量含む、炭粒ごく微量含む 粘性やや有、締まっている
 - 2.5Y8/4淡黄色粘土ブロック主体 その周囲に灰黄褐色土ごく微量含む 粘性やや有、締まっている

P390

- 10YR3/3暗褐色土 地山ブロック、炭粒、かわらけ細片を微量含む 粘性、締まりやや有
- 10YR7/3にぶい黄褐色土ブロック主体 灰黄褐色土ブロック多量含む 粘性やや有、締まりやや有
- 10YR3/4暗褐色土 酸化鉄有 かわらけ細片、炭粒微量含む 粘性、締まりやや有
- 10YR7/3にぶい黄褐色土ブロック主体 灰黄褐色土少量 炭粒、かわらけ細片ごく微量含む 粘性、締まりやや有

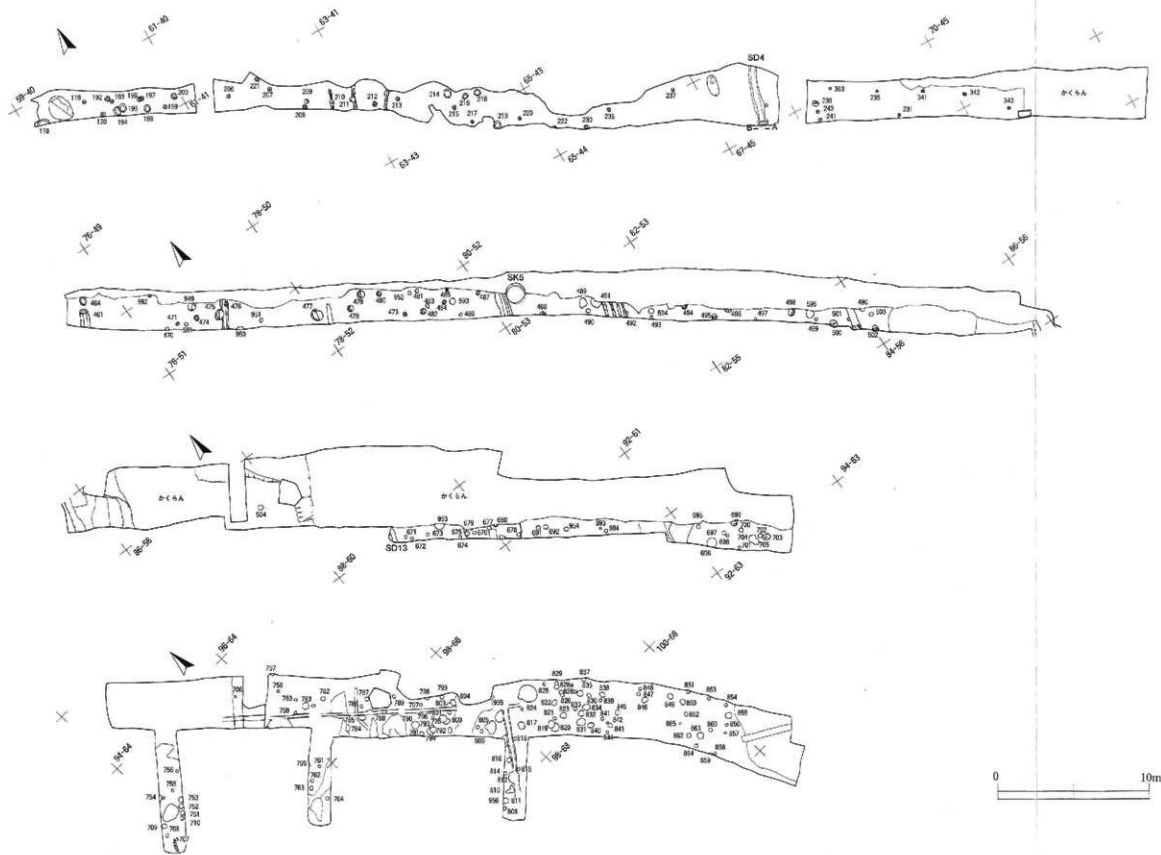
※ 1は抜き取り 2-4が層方

P408

- 10YR4/3にぶい黄褐色土 多量の河原石、かわらけ細片を少量含む 粘性やや有、締まっている
 - 10YR4/3にぶい黄褐色土 地山ブロック(小粒)多量を含む 粘性やや有、締まっている
- 3a 2.5Y7/2灰黄色褐色土ブロック主体 にぶい黄褐色土ブロック少量含む 粘性有、締まりやや有
- 3b 2.5Y7/2灰黄色褐色土ブロック主体 にぶい黄褐色土ブロック少量、かわらけ片微量含む 粘性有、締まりやや有
- ※ 全て人為堆積 2層の所に柱があったのか? 3a・3bは層方になるのか?

(P617)・P543・(P619)

- 10YR3/4暗褐色土 河原石大量、かわらけ細片を微量含む 粘性、締まりやや有
- 10YR5/3にぶい黄褐色土 炭粒ごく微量、河原石大量を含む 粘性有、締まりやや有
- 10YR4/3にぶい黄褐色土 地山ブロックを不規則に少量含む 炭粒微量、かわらけ細片ごく微量含む 粘性やや有、締まっている
- 2.5Y8/2灰白色粘土 炭粒、かわらけ細片ごく微量含む 粘性やや有、締まっている
- 10YR6/3にぶい黄褐色土 地山ブロック多量を含む 上には河原石が多量に見られる 粘性弱、締まっている
- 2.5Y8/2灰白色砂 酸化している部分もある 粘性弱、締まっている(地山か?)
- 2.5Y7/4淡黄色粘土 酸化している部分もある 粘性弱、締まっている(地山か?)



第26図 北上川沿い調査区遺構配置図

YG59土層注記(2)

(P543)・P548

1. 10YR3/4暗褐色土 かわらけ細片、河原石を多量に含む 粘性やややや、締まっている(人為)

2. 2.5Y7/6明黄褐色土塊土ブロック主体 暗褐色土ブロック少量混じる 粘性、締まりやややや(人為)

3. 10YR4/4褐色土 粘性、締まりやややや(人為)

4. 10YR3/3暗褐色砂質土 河原石大量、かわらけ細片少量含む 粘性弱、締まりやややや(人為)

5. 10YR3/1黒褐色土 河原石は4層に伴う粘性、締まりやややや(人為)

6. 2.5Y8/4黄褐色粘土ブロック多量 黒褐色土ブロック少量 粘性やややや、締まっている(人為)

P413

1. 10YR3/3暗褐色土 かわらけ細片多量、炭粒散在含む 粘性やややや、締まっている

2. 10YR4/2灰黄褐色土 粘性やややや、締まっている

3. 10YR4/2-5灰黄褐色土 かわらけ細片、炭粒少量含む 粘性、締まりやややや

4. 10YR4/2灰黄褐色土 地山ブロック(大粒)の、埋ごく炭粒を含む 粘性やややや、締まっている

※ 1-3は抜き取り 4層方?

P459

1. 10YR4/4褐色土 地山ブロック、炭粒、かわらけ細片を散在含む 粘性やややや、締まり弱(抜き取り)

2. 10YR4/2灰黄褐色土 地山ブロック多量を含む 粘性、締まりやややや(堀方)

P557

1. 10YR2/2暗褐色土 褐色土ブロックを少量、炭粒、かわらけ多量に混じる 粘性、しまりやややや

2. 10YR4/4褐色土 地山ブロック多量を含む 3層との境にはうすい炭が層を成すかわらけ多量含む、河原石少量含む 粘性、締まりやややや

3. 2.5Y8/4黄褐色粘土質土山ブロック主体の埋ごく暗褐色土炭粒を含む かわらけ多量、炭粒散在含む 粘性、締まりやややや

4. 10YR2/1黒色土 粘性、締まりやややや(これは土取か?)

※ 1-3層は同時に埋めたかともよい層積(人為)

※ 4層とは土塊があった(4層)その上に柱穴があつてそれを抜き取った(1-3層)かわらけが1-3層間、その時点で削れていっかわらけを露出している

※ 堀間に自然溝が見られないので想問での形成

P560

1. 10YR3/3暗褐色土 かわらけ細片多量、炭粒含む 粘性やややや、締まっている(抜き取り)

2. 10YR4/1褐色土 地山ブロック大量を含む 粘性やややや、締まっている(堀方)

3. 10YR3/3暗褐色土 かわらけ細片ごく微量含む 粘性、しまりやややや

4. 10YR3/4暗褐色土 地山ブロック大量を含む 粘性やややや、締まっている

P564

1. 10YR3/2黒褐色土 地山ブロック大量を含む かわらけ細片と炭粒をごく微量含む 粘性やややや、締まっている(堀方)

2. 10YR3/4暗褐色砂質土 炭粒を多く含むかわらけ細片を少量含む 粘性弱、締まり弱(抜き取り)

3. 10YR4/2灰黄褐色土 かわらけ細片、炭

粒を少量含む 粘性、締まりやややや(抜き取り)

P569・P610(カクラン)

(P569)

1. 10YR4/3にぶい黄褐色土 かわらけ細片多量、大小の礫多量を含む 粘性、締まりやややや(抜き取り堀)

2. 10YR5/4にぶい黄褐色土 酸化鉄有粘性やややや、締まっている

3. 10YR7/4にぶい黄褐色土 ぶい黄褐色土ブロック(極少粒)を少量含む 粘性やややや、締まっている

4. 10YR4/2灰黄褐色土にぶい黄褐色土山ブロックの混合 炭粒ごく微量含む 粘性、締まりやややや

5. 10YR4/1褐色土 炭粒、かわらけ細片含む

※ 2-3層は堀方の埋土

P610

1. 10YR4/3にぶい黄褐色土 地山ブロック微量含む 粘性やややや、締まっている

2. 10YR5/4黄褐色土 かわらけ細片含む 粘性、締まりやややや

3. 10YR8/4褐色土 炭粒少量含む 新しい時代の高磁鉄、炭粒などが入る 粘性、締まりやややや

4. 10YR4/4褐色土と地山ブロックの混合土 粘性、締まりやややや

P655

1. 10YR2/3黒褐色土 地山ブロック、炭粒少量、かわらけ(細片から完形まで)大量を含む 粘性、締まりやややや

2. 10YR7/4にぶい黄褐色土 黄灰色土ブロック少量、炭粒、かわらけ細片ごく微量含む 粘性やややや、締まっている

3. 10YR3/3暗褐色土 炭粒多量、かわらけ片少量含む 粘性やややや、締まり弱

4. 2.5Y7/3黄褐色粘土 炭灰色粘土ブロック、炭粒少量含む かわらけ片散在含む 粘性、締まりやややや

5. 10YR7/4にぶい黄褐色粘土 かわらけ片含む 粘性、締まりやややや

6. 10YR3/3暗褐色土ブロック主体 地山粘土ブロック多量を含む かわらけ細片散在含む 粘性やややや、締まっている

7. 10YR4/3にぶい黄褐色土 地山粘土ブロック多量、かわらけ細片少量含む 粘性やややや、締まっている

※ 1-6が抜き取り 6が堀方 7は別の柱穴

P570

1. 10YR3/4暗褐色土ブロック 黒褐色及び地山ブロックも多量に含む 中小の礫とかわらけ細片を多量に含む 粘性やややや弱、締まっている

2. 10YR4/2灰黄褐色土 地山ブロック小粒を多量、かわらけ細片をごく微量含む 粘性やややや、締まっている

3. 10YR3/4暗褐色土 かわらけ細片、炭粒をごく微量含む 粘性、締まりやややや

4. 10YR4/3にぶい黄褐色土 酸化鉄有粘性、締まりやややや

5. 10YR4/4褐色土 地山ブロック散在含む 粘性、締まりやややや

6. 10YR5/8明黄褐色土 粘性やややや、締まっている

7. 10YR4/2灰黄褐色土 炭粒ごく微量含む 粘性やややや、締まり弱

8. 10YR5/3にぶい黄褐色土 地山ブロック多量、炭粒(大)微量含む 粘性やややや、締まっている

9. 10YR4/2灰黄褐色土 炭粒多量を含む 粘性やややや、締まり弱

10. 10YR4/2灰黄褐色土 地山ブロック(極小)、炭粒微量を含む 粘性やややや、締まり弱

※ 1・2層は抜き取り 3-10層は堀方の埋土 9層は2層の下にも露く見られる

P612・P579

(P612)

1. 10YR3/3暗褐色土 炭粒少量、かわらけ細片微量含む 粘性やややや、締まりやや弱

(P579)

1. 10YR4/3にぶい黄褐色土 酸化鉄有 地山ブロック多量含む(大粒) 炭粒ごく微量含む 粘性やややや、締まっている(抜き取り堀)

P609・P580

(P609)

1. 10YR3/2黒褐色土 粘性、締まりやややや

2. 10YR3/3暗褐色土 地山ブロックを多量に含む かわらけ細片、炭粒少量見られる 小礫少量含む 粘性、締まりやややや(抜き取り堀)

P581

1. 10YR6/3にぶい黄褐色土ブロック(細) 灰黄褐色土ブロック微量混じる 2層との境界付近には大量の河原石が見られる 粘性土、締まっている

2. 10YR3/2黒褐色土 1層との境界には多量の河原石が見られる 粘性弱、締まっている

3. 10YR4/4褐色土 地山ブロック少量含む 粘性やややや、締まっている

4. 10YR4/2灰黄褐色土 地山ブロック少量含む 粘性やややや、締まっている

5. 10YR5/4にぶい黄褐色土 地山ブロック多量、暗褐色含む 粘性、締まりやややや

6. 2.5Y7/3黄褐色粘土 地山粘土ブロック多量を含む 粘性やややや

7. 2.5Y7/6明黄褐色土 粘性、締まりやややや

8. 2.5Y7/4黄褐色土 灰黄褐色土ブロック少量含む 粘性、締まりやややや

9. 2.5Y7/6明黄褐色土 灰黄褐色土ブロック少量含む 粘性、締まりやややや

※ 1-6層は抜き取り 7-9層は堀方

P605

1. 7.5YR3/2黒褐色土 かわらけ片、礫含む 粘性、締まりやややや

2. 10YR3/2黒褐色土にぶい黄褐色土地山ブロック大量を含む かわらけ片少量含む 粘性、締まりやややや

3. 10YR4/1褐色土 かわらけ細片を大量に含む 粘性、締まりやややや

4. 10YR3/3にぶい黄褐色土 地山灰白色土、暗褐色土ブロックを多量に含む かわらけ片も多く入る 粘性やややや、締まっている 上面に伏せたかわらけがあった

※ 全て人為 1層は新しい堀方か?

42SD13

1. 10YR3/3暗褐色土 かわらけ細片少量、地山ブロック微量、大小の礫は部分的に見られる 炭ごく微量含む 粘性、締まりやややや 人為

P933

1. 10YR4/1褐色土 地山ブロック多量を含む 炭粒散在量を含む 粘性やややや、締まっている (SB3の柱穴の堀方)

第Ⅵ章 付編 自然科学分析調査報告書

(1) 柳之御所遺跡出土木製品の年輪年代測定結果

独立行政法人文化財研究所 奈良文化財研究所
環境文化財センター古環境研究室長 光谷 拓実

はじめに

わが国では奈良文化財研究所が長年かかって、ヒノキ、スギ、コウヤマキ、ヒバの4樹種について、年代を割り出す際に基準となる暦年標準パターンをそれぞれヒノキが約2900年間（紀元前912年～2000年）、スギが約3300年間（紀元前1313年～2000年）、コウヤマキが約700年間（22年～741年）、ヒバが約400年間（924年～1325年）について作りあげてきた。これらの暦年標準パターンは、地域別、樹種別に個々の状況に応じて使い分けながら、広い地域の歴史学に関連した木材の年代測定に多くの成果を上げている。

東北地方において広く使っている暦年標準パターンは、東北地方の遺跡出土木材で作成した891年分のスギの暦年標準パターン（1988年作成：436年～1337年）と、401年分のヒバの暦年標準パターン（1992年作成：924年～1325年）とである。これまでに、この2種類の暦年標準パターンを使った考古遺跡は数多い。なかでも1988年に秋田県史跡弘田横跡の櫓木の年輪年代が、801年、802年の2年にまたがって伐採されたスギ材が使われていたことを明らかにした事例は、長年にわたった論争（759年の創建雄勝城とする説とそうでないとする反対説）に、はじめて具体的な年代情報が提示され、創建当初の雄勝城でないとする説を補強する結果となり、研究者の関心を大いに呼ぶことになった^{1) 2)}。

一方、岩手県においては、1988年からはじまった柳之御所の発掘調査で出土したスギの折敷に墨で描かれた「寝殿造墨画」の年代測定例が最初であった。この折敷の最外年輪の年代は1051年+α年と判明、この原木の伐採年を推察した場合、藤原氏初代～三代にかけての年代のものである可能性がきわめて高いことがわかり、この遺跡の性格を考えるうえで重要な年代情報となった。これを契機に、年代測定が可能と思われる木材が出土する度に、年輪年代法による出土木材の年代調査を断続的に実施してきた。しかし、これらの年代測定結果は既刊の報告書に散発的に取りあげられたことはあったが、総合的にまとめた報告はなかった。そこで、このたび刊行される『柳之御所遺跡―第59次発掘調査概報―』に収録する機会をいただいたので、これまでの調査結果をとりまとめて報告することとする。

年輪年代法の原理

樹木には一年を単位とする年輪が形成されるが、この年輪幅はとりわけ気温、降水量、日照時間などの気象条件によって左右される。実際にヒノキやスギの年輪の変動変化（年輪パターン）を過去に通って調べてみると、同年代に形成された年輪は広い地域においてほぼ同じものになっている。まずこうした特性をもった樹種であれば、年輪パターンを手がかりに、同年代に形成された年輪かどうかの判定が可能となる。

年輪年代法にとって第1に重要な点は、長期間に通っての暦年標準パターンを作成することにある。この作成作業は、最初に伐採年の判明している樹木の試料から年輪幅の計測値（年輪データ）を多数収集し、ひとまず暦年標準パターンを作成する。さらに古建築材や遺跡出土木材を多数収集し、これらから計測収集した年輪データを用いて作成した年代未知パターンを現生木の年輪で作成した暦年標準パターンと照合、合致した年代位置で正しく連結し、過去に遡らせる。さらに、この作業をサンプルの得られる限り古い年代まで遡らせ、結果として長期の暦年標準パターンを作成する。次に年代不明の木材の年輪パターンを暦年標準パターンに当てはめて合致するところを探し求めれば、年代不明木材に刻まれている最外年輪に暦年標準パ

ターンの暦年をあてることによって、不明木材（樹皮が付いているか、あるいは樹皮直下の年輪が残存している形状のもの）の最外年輪が今から何年前に形成されたものか、つまり、その試料材の伐採年、あるいは枯死年が暦年で確定できる。これが年輪年代法の基本原理である。こうして得られた年代について、上記のような形状をした木材や木製品であれば、年輪年代を解釈するにあたってはそう大きな問題はない。しかし、原木の外周部が大きく削られたり、腐蝕してしまったものであれば、残存最外年輪の年輪年代が確定しても、原木の伐採年代からは著しく古い年代を示すことになるので、その取り扱いには注意を要する。そこで、年代測定の対象となる木材の形状をつぎの3つに大別して説明しておこう。

試料の形状と年輪年代

- 1) 樹皮型：樹皮または最外形成年輪が完存しているか、あるいはその一部でも残存しているもの。このタイプの年輪年代は原木の伐採年を示す。
- 2) 辺材型：試料の一部に辺材をとどめているもの。このタイプの年輪年代は伐採年代に比較的近い年代を示す。
- 3) 心材型：辺材部をすべて失い、心材部のみからなるもの。このタイプの年輪年代は伐採年より古い年代を示す。

この他に、出土木材から得られた年輪年代を遺跡、遺構にあてはめて考える場合に、注意しなければならない点がある。普通、木製品の場合、A) 山から原木を伐り出し、B) 何年間か乾燥させ、C) 目的とする製品に加工し、D) これを何年間にわたって使用、そしてE) 最終的に廃棄、といった過程をたどる。今回のように、扱った大多数のものが当時宴会などで使ったであろう一過性の強い折敷の類であることから、A) からE) に至る経過年数はきわめて少ないものが多いと考える。となると、今回得られた年輪年代は比較的、遺跡、遺構の年代に直接的に関わる年代情報が多いように思われる。また、古材を再利用したものであれば、こまえた実際の年代より古い年代を示すことになるから要注意である。

試料と方法

年輪年代法による年代測定にあたっては、柳之御所跡の発掘調査で出土した木製品のなかから、スギやヒバの径目板を使用した木製品に着目し、年輪がおおよそ100層以上あると思われるものを選ぶこととした。選定した木製品は、比較的年輪密度の高い折敷や曲物類であった。現地で選定した木製品は当研究所に搬送し、専用の年輪読取器（実体顕微鏡付、0.01mmまで測定）で年輪幅を計測した。つぎに、年代を割り出すにあたって準備した暦年標準パターンはスギが436年～1337年、ヒバが924年～1325年の2種類である。コンピュータによる年輪パターンの照合方法は、時系列解析に用いられる相関分析手法³⁾によった。この方法は、ヨーロッパの年輪年代学研究者が1970年代から広く使っている方法である。ここで年輪パターンの照合が成立したか否かについての判断基準としては、分布検定による検定をおこない、 t 値 ≥ 5.0 前後以上となる箇所に着目する。このとき t 値が5.0前後以上となる箇所が複数箇所検出されたときには、最大 t 値の年代位置を最優先する。最終判断を下すにあたっては、コンピュータで検出した最大 t 値のところで相方の年輪パターングラフを重ね合わせ、目視で詳細に検討し、問題のないことを確認してから木材の最外年輪の年代を確定することとした。

結果

長年にわたる柳之御所跡の発掘調査で出土した多量の各種木製品のなかから、実際に年代測定用の出土木製品を選ぶとなると意外に少ない。それは、選定樹種がスギとヒバに限られること、つぎに木製品のなかの年輪が一応の目安としている100層以上必要なこと、また、大きく乱れることなく均一に年輪が測まれてい

ることなどの条件を満たすものが、極端に少ないからである。しかし、こうした選定条件のもと、本遺跡で年代測定用を選び出した木製品の総数は42点であった。樹種の内訳はスギ材が36点、ヒバ材が6点であった。このなかで樹皮型-4点、辺材型-21点、心材型-15点、辺材と心材の識別が不明瞭なもの-2点であった。これらの計測年輪数や年輪年代は、図1-図2に示したとおりである。

今回扱った木製品は概して大きい形状のものではなく、年輪数が100層以下のものが11点もあった。普通、年輪数の少ないものは暦年標準パターンとの照合において成立しない場合が多いが、今回はそのうち9点について暦年標準パターンとの照合が成立し、年輪年代を確定することができた。全体としては、年輪年代が判明した木製品は約3割の31点が確定し、本遺跡の年代や性格を考えるうえで貴重な年代情報が得られた。

つぎに、清衡（初代）、基衡（二代）、秀衡（三代）の3代と木製品の年輪年代（樹皮型、辺材型）との関係を対応づけて見ることにする。

清衡

初代清衡は、平泉の黄金文化の基礎を築いた武将として有名である（1056年-1128年）。今回の年輪年代から、果たして清衡の時代のものが存在していたのかどうか、この点に的を絞って年代結果をみてみることにする。No1の折敷には寝殿造墨画があざやかな筆致で描かれており、関係者から大いに注目されたものである。この年輪年代は心材型で1051年+ α 年、これに削除された外面の年輪（ α 年）を秀衡の晩年まで下らせるとなると、あと70余年分加算しなければならず、外面を幅にして約7cm以上削ることになる（平均年輪幅が1.0mm幅で推移したものと仮定した場合）。ちなみに、樹齢200-300年以上の天然スギの平均辺材幅は4.5-5.0cmである。ここで他の出土折敷類をみると、辺材部をとどめているものが多いことからして、この折敷の外面が7cm以上にわたって大きく削除されている可能性は少ないように思われる。したがって、この折敷は清衡の生存中に製作されてもおかしくはない。これ以外に、確実に清衡の時代のものとして断定できるものにNo4の杓子形木製品とNo18の折敷とがある。No4の形状は辺材型で、辺材幅が4.0cmあり、この年輪年代は1105年であるから、残存辺材幅からみて伐採年代に近い年代と見られるので、初代の頃のものであろう。No18は辺材幅が4.5cmで、年輪年代は1050年、これもまた清衡の時代のもので間違いのない。但し、古材を再利用したものであったり、伝世したものである可能性はある。このように、年輪年代の結果を見るかぎり、清衡の時代と重複する年輪年代を示すものは少ない。

基衡

基衡は1157年頃に没したと推定されている。年輪年代からは、清衡没後の1128年から基衡の推定死亡年である1157年の間に入る物に着目すると、No2の折敷（1141年）、No4の折敷（1138年）、No6の折敷（1136年）、No10の折敷（1130年）、No17の折敷（1123年）、No29の板材（1148年）の6点が考えられる。この結果から、柳之御所がこの代になってはじめて本格的に機能しはじめたことが読みとれる。

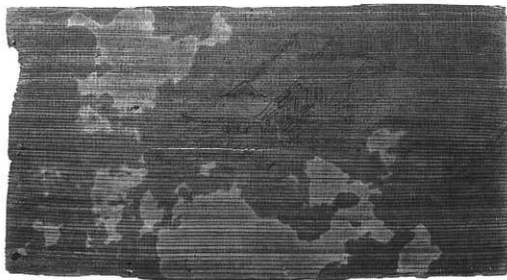
秀衡

秀衡の時代に該当する木製品は、基衡没後の年代（1157年頃）を上限にしてそれより後の年輪年代に注目すると、No3の折敷（1158年）、No7の折敷（1180年）、No8折敷（1173年）、No9の折敷（1175年）、No11の折敷（1164年）、No13の？（1173年）、No15（1169年・飾り具？）、No25の折敷（1177年）、No27の折敷（1186年）、No33の薄板（1181年）、No34の曲物底板（1162年）、No35の折敷（1159年）、No36の折敷（1155年）の総数13点がリストアップできる。このように初代、二代の頃のものに比べて、格段に数量が多い。このことは、秀衡の代において本遺跡が隆盛をきわめていた時代であったことを示している。

以上、藤原三代についてそれぞれ個別に焦点をあてて年輪年代をみてきたが、42点の年輪年代からは、本遺跡の年代が12世紀の後半代、とくに秀衡の時代のもものが格段に多いことがわかった。このことは、本遺跡が最も活発に機能していたのは秀衡の時代であったことを年輪年代の結果から垣間見ることができ。なか

でもNo27の折敷から得られた年輪年代1186年は、藤原氏滅亡の直前まで本遺跡が機能していたことを示す唯一の出土遺物でもある。ちなみに現時点では、1189年の滅亡以降の年輪年代を示す出土木製品は1つとして発見されておらず、源氏によって滅ぼされた時点をもって、本遺跡そのものが完全に終焉したことを物語っていると見てよからう。

- 1) 新野直吉、船木義勝『弘田橋の研究』、文献出版、1990年
 - 2) 『弘田橋跡Ⅱ-一区画施設-』、秋田県文化財調査報告書第289集、秋田県教委、秋田県教育庁弘田橋跡調査事務所、1999年
 - 3) 田中琢、光谷拓実、佐藤忠信『年輪に歴史を読む-日本における古年輪学の成立-』、奈良国立文化財研究所学報第48、同朋舎出版、1990年
- 注) これまで継続的に実施してきた調査結果は、すでに報告書等に散発的に報告されたものもある。今回、同一の木製品についても収録したが、何点かは今回再報告する年輪年代と異なったものもある。この場合、年輪年代の取り扱いは本報告に掲載した年代値を採用していただきたい。



28SE2出土「寝殿造墨面折敷」(試料No.1)

柳之御所跡遺跡出土木製品の年輪年代測定結果 No. 1

No.	出土遺構	製品名 (遺物番号)	樹種	年輪数	年輪年代	t値	辺材(cm)	700	800	900	1000	1100	1200	A.D.
1	28SE2	墨書折敷 (2080)	スギ	95	1051	6.2	—			957		1051		
2	28SE2	墨書折敷 (2081)	◇	99(+1層)	1141	5.6	5.2			1042		1141		
3	28SE16	* (2774)	◇	262(+1層)	1158	7.3	4.0			896		1158		
4	28SE16	* (2772)	◇	209(+1層)	1138	8.2	2.6			929		1138		
5	不明	折敷	ヒバ	110	—	—	—							
6	31SE2	折敷底板 (2867)	◇	323	1136	7.2	1.1			814		1136		
7	28SE11	* (2509)	◇	173(+1層)	1180	5.8	不明			1007		1180		
8	21SD1a	* (652)	スギ	97	1173	7.6	4.5			1077		1173		
9	28SE3	* (2131)	◇	174	1175	6.8	5.0			1002		1175		
10	28SE2	* (2084)	◇	260	1130	6.7	2.7			871		1130		
11	31SE6	* (2996)	◇	207	1164	8.4	3.2			958		1164		
12	21SD1a	円形曲物底板 (607)	◇	141	—	—	1.9							
13	不明	不明	◇	162	1173	4.9	不明			1012		1173		
14	31SE1	杓子形木製品 (2822)	◇	94	1105	5.9	4.0			1012		1105		
15	21SD1a	飾り具? (745)	◇	119	1169	4.9	3.5			1051		1169		
16	21SD1a	折敷 (645)	◇	57	—	—	0.8							
17	28SE4	折敷底板・棧 (2363)	◇	66	1123	6.1	3.2			1058		1123		
18	28SE11	折敷	◇	142	1050	4.5	4.5			909		1050		
19	28SE11	◇	◇	116	—	—	—							
20	28SE4	折敷? (2371)	◇	105	—	—	—							
21	21SE1	折敷	◇	140	—	—	—							

柳之御所跡遺跡出土木製品の年輪年代測定結果 No. 2

No.	出土遺構	製品名 (遺物番号)	樹種	年輪数	年輪年代	t値	辺材 (cm)	700	800	900	1000	1100	1200	A.D.
22	28SE11	折敷	スギ	144	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
23	28SE11	折敷底板 (2511)	◇	91	1119	10.3	1.9	—	—	1029	—	—	1119	
24	21SE1	折敷?	◇	87	945	5.4	—	859	—	945	—	—	—	
25	30SE6	折敷底板	◇	150(+1層)	1177	8.1	4.0	—	—	1027	—	—	1177	
26	52SE8	◇ (5018)	スギ	183	—	—	3.2(完存)	—	—	—	—	—	—	
27	52SE8	◇ (5010)	◇	168	1186	8.0	3.3(完存)	—	—	1019	—	—	1186	
28	52SE8	箱片 (5044)	◇	83	—	—	5.5(完存)	—	—	—	—	—	—	
29	53次井戸	板材	◇	115	1148	6.4	5.6(完存)	—	—	1034	—	—	1148	
30	志羅山59次 2号井戸	曲物底板	◇	150	1099	6.6	1.6	—	—	950	—	—	1099	
31	28RW209	折敷断片IWT-881-333 (不掲載)	スギ	127	—	—	1.7	—	—	—	—	—	—	
32	28SE11	折敷15層 No.12 (不掲載)	ヒバ	132	—	—	1.7	—	—	—	—	—	—	
33	28SE11	薄板15層 No.18 (不掲載)	◇	156	1181	4.6	1.8	—	—	1026	—	—	1181	
34	25SE1	曲物底板 (完形品)	スギ	169	1162	5.6	3.3	—	—	994	—	—	1162	
35	28RW188	折敷 IWT-404 (不掲載)	◇	167	1159	8.2	—	—	—	993	—	—	1159	
36	28RW216	折敷 IWT-889 (不掲載)	◇	147	1155	11.4	—	—	—	1009	—	—	1155	
37	21SD1a	板材 No.105 (不掲載)	◇	93	990	5.4	—	898	—	990	—	—	—	
38	56SD39	不明木製品 (4022)	ヒバ	120	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
39	56SD39	折敷 (4109)	スギ	157	1084	6.0	—	—	—	928	—	—	1084	
40	志羅山85次 沢地形旧敷土	折敷	◇	210(+6層)	1121	5.1	—	—	—	906	—	—	1121	
41	31RW348	折敷状板材 IWT728 (不掲載)	◇	94	1097	5.1	—	—	—	1004	—	—	1097	
42	28SE11	折敷状板材 (不掲載)	◇	100	1104	8.2	—	—	—	1005	—	—	1104	

(2) 年代測定結果報告書

株式会社：加速器分析研究所

- 1) 年代値の算出には、Libbyの半減期5568年を使用しています。
- 2) B P年代値は、1950年からさかのぼること何年前かを表しています。
- 3) 付記した誤差は次のように算出しています。
複数回（普通は4回）の測定値について×2検定を行い、通常報告する誤差は測定値の統計誤差から求めた値を用い、測定値が1つの母集団とみなせない場合には標準誤差を用いています。
- 4) $\delta^{13}\text{C}$ の値は、通常は質量分析計を用いて測定しますが、AMS測定の場合に同時に測定される $\delta^{13}\text{C}$ の値を用いることもあります。
 $\delta^{13}\text{C}$ 補正をしない場合の同位体比および年代値も参考に掲載しておきます。

同位体比は、いずれも基準値からのずれを千分偏差（‰；パーミル）で表したものです。

$$\delta^{14}\text{C} = \left[\frac{(^{14}\text{AS} - ^{14}\text{AR})}{^{14}\text{AR}} \right] \times 1000 \quad (1)$$

$$\delta^{13}\text{C} = \left[\frac{(^{13}\text{AS} - ^{13}\text{APDB})}{^{13}\text{APDB}} \right] \times 1000 \quad (2)$$

ここで、 ^{14}AS ：試料炭素の ^{14}C 濃度： $(^{14}\text{C}/^{12}\text{C})$ Sまたは $(^{14}\text{C}/^{13}\text{C})$ S

^{14}AR ：標準現代炭素の ^{14}C 濃度： $(^{14}\text{C}/^{12}\text{C})_0$ または $(^{14}\text{C}/^{13}\text{C})_0$

$\delta^{13}\text{C}$ は、質量分析計を用いて試料炭素の ^{13}C 濃度： $(^{13}\text{AS} = ^{13}\text{C}/^{12}\text{C})$ を測定し、PDB（白亜紀のベレムナイト（矢石）類の化石）の値を基準として、それからのずれを計算します。

但し、I A Aでは加速器により測定中に同時に $^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$ も測定していますので、標準試料の測定値との比較から算出した $\delta^{13}\text{C}$ を用いることもあります。この場合には表中に〔加速器〕と注記します。

また、 $\Delta^{14}\text{C}$ は、試料炭素が $\delta^{13}\text{C} = 25.0$ (‰)であるとしたときの ^{14}C 濃度 (^{14}AN) に換算した上で計算した値です。(1)式の ^{14}C 濃度を、 $\delta^{13}\text{C}$ の測定値をもとに次式のように換算します。

$$^{14}\text{AN} = ^{14}\text{AS} \times (0.975 / (1 + \delta^{13}\text{C}/1000))^2 \quad (^{14}\text{AS} \text{として } ^{14}\text{C}/^{12}\text{C} \text{ を使用するとき})$$

または

$$= ^{14}\text{AS} \times (0.975 / (1 + \delta^{13}\text{C}/1000)) \quad (^{14}\text{AS} \text{として } ^{14}\text{C}/^{13}\text{C} \text{ を使用するとき})$$

$$\Delta^{14}\text{C} = \left[\frac{(^{14}\text{AN} - ^{14}\text{AR})}{^{14}\text{AR}} \right] \times 1000 \quad (\text{‰})$$

貝殻などの海洋が炭素起源となっている試料については、海洋中の放射性炭素濃度が大気中の炭酸ガス中の濃度と異なるため、同位体補正のみを行なった年代値は実際の年代との差が大きくなります。多くの場合、同位体補正をしない $\delta^{13}\text{C}$ に相当するB P年代値が比較的良好その貝と同一時代のものと考えられる木片や木炭などの年代値と一致します。

^{14}C 濃度の現代炭素に対する割合のもう一つの表記として、PMC (percent Modern Carbon) がよく使われており、 $\Delta^{14}\text{C}$ との関係は次のようになります。

$$\Delta^{14}\text{C} = (\text{PMC}/100 - 1) \times 1000 \quad (\text{‰})$$

$$\text{PMC} = \Delta^{14}\text{C}/10 + 100 \quad (\text{‰})$$

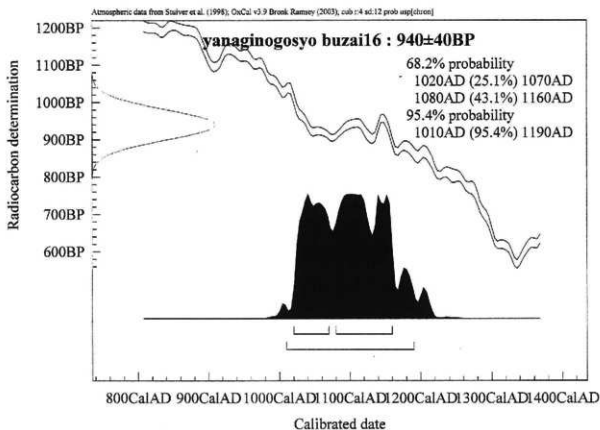
国際的な取り決めにより、この $\Delta^{14}\text{C}$ あるいはPMCにより、放射性炭素年代 (Conventional Radiocarbon Age; yrBP) が次のように計算されます。

$$T = 8033 \times \ln \left[\left(\frac{\Delta^{14}\text{C}}{1000} \right) + 1 \right]$$

$$= -8033 \times \ln \left[\left(\frac{\text{PMC}}{100} \right) \right]$$

TAA Code No.	試料	B P年代および炭素の同位体比
IAAA-42604 #906	試料採取場所：平泉町 平泉字柳之御所 試料形態：木片 試料名(番号)：柳之御所遺跡・部材16	Libby Age(yrBP) : 940 ± 40 $\delta^{13}\text{C}$ (‰)、(加速器) = -24.86 ± 0.97 $\Delta^{14}\text{C}$ (‰) = -110.1 ± 4.8 PMC(%) = 88.99 ± 0.48
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) = -109.9 ± 4.5 PMC (%) = 89.01 ± 0.45 Age (yrBP) : 930 ± 40

【参考値：暦年補正 Radiocarbon determination】



使用プログラム：OxCal v3.9

(3) 柳之御所遺跡における放射性炭素年代測定

株式会社 古環境研究所

1. 試料と方法

試料名	地点・層準	種類	前処理・調整	測定法
No 1	28SB4, 柱穴, 炭層	炭化物	酸-アルカリ-酸洗浄, 石墨調整	AMS
No 2	植物遺体	木片	酸-アルカリ-酸洗浄, 石墨調整	AMS

AMS: 加速器質量分析法 (Accelerator Mass Spectrometry)

2. 測定結果

試料名	測定No (Beta-)	¹⁴ C年代 (年BP)	δ ¹³ C (‰)	補正 ¹⁴ C年代 (年BP)	暦年代 (西暦) (1σ:68%確率, 2σ:95%確率)
No 1	200242	950±40	-25.0	950±40	交点: cal AD 1040 1σ: cal AD 1020~1160 2σ: cal AD 1010~1180
No 2	200243	1140±40	-22.5	1180±40	交点: cal AD 880 1σ: cal AD 790~900 2σ: cal AD 770~970

(1) ¹⁴C年代測定値

試料の¹⁴C/¹²C比から、単純に現在 (AD1950年) から何年前かを計算した値。¹⁴Cの半減期は、国際的慣例によりLibbyの5,568年を用いた。

(2) ¹³C測定値

試料の測定¹⁴C/¹²C比を補正するための炭素安定同位体比 (¹³C/¹²C)。この値は標準物質 (PDB) の同位体比からの千分偏差 (‰) で表す。

(3) 補正¹⁴C年代値

δ¹³C測定値から試料の炭素の同位体分別を知り、¹⁴C/¹²Cの測定値に補正值を加えた上で算出した年代。試料のδ¹³C値を-25 (‰) に標準化することによって得られる年代である。

(4) 暦年代

過去の宇宙線強度の変動による大気中¹⁴C濃度の変動を校正することにより算出した年代（西暦）。calはcalibrationした年代値であることを示す。校正には、年代既知の樹木年輪の¹⁴Cの詳細な測定値、およびサングのU-Th年代と¹⁴C年代の比較により作成された校正曲線を使用した。最新のデータベースでは約19,000年BPまでの換算が可能となっている。

暦年代の交点とは、補正¹⁴C年代値と暦年代校正曲線との交点の暦年代値を意味する。1（68%確率）と2σ（95%確率）は、補正¹⁴C年代値の偏差の幅を校正曲線に投影した暦年代の幅を示す。したがって、複数の交点が表記される場合や、複数の1σ・2σ値が表記される場合もある。

3. 所見

加速器質量分析法（AMS法）による放射性炭素年代測定の結果、No 1の炭化物では950±40年BP（1σの暦年代でAD 1020～1160年）、No 2の木片では1180±40年BP（同AD 790～900年）の年代値が得られた。このうち、No 1では放射性炭素年代測定値よりも暦年代の年代幅がかなり大きくなっているが、これは該当時期の暦年代校正曲線が不安定なためである。

文献

- Stuiver et al. (1998). INTCAL98 Radiocarbon Age Calibration, Radiocarbon, 40, p.1041-1083.
中村俊夫 (1999) 放射性炭素法. 考古学のための年代測定学入門, 古今書院, p.1-36.

